

寄せ蛾記 93

1999年12月24日



埼玉昆虫談話会

表紙の昆虫

◆キイロスズメバチを肉団子にするオオスズメバチ

20年以上前、北海道大学農学部附属植物園のハルニレの巨木の樹洞に造られたオオスズメバチの巣を採りました。山根正気氏が巣のデータを採った後、育室の幼虫や蛹を引き抜き、料理して食べました。味は…スズメバチ類では最低でした。幼虫はゴムのように堅く、蛹はとともかみ切れません。

浦和市東部にはオオスズメバチは多いのですが、食べる気にはなりません。

文とイラスト：巢瀬 司

ジャコウアゲハの大発生について

萩島 和美

はじめに

記録的な猛暑が続いた8月の後半、荒川右岸にあたる大宮市西遊馬の道路脇で普段見慣れないジャコウアゲハを2♀目撃しうち1♀を採集した。8月24日のことである。2日後の8月26日毎日通勤に利用している荒川の堤防上の道路を通行中たくさんのジャコウアゲハが飛んでいるのに気がついた。2♀を採集し堤防の草地を見るとウマノスズクサがいたところに生育しており、成虫のほかに卵、幼虫も見られた。これまでこの場所でジャコウアゲハを意識したことなく通過していたので今年が特別なのか、単に気がつかなかっただけのか不明であるが、毎日の通勤途中のわずかな時間に観察した事柄をいくつかまとめて報告したい。

成虫の行動

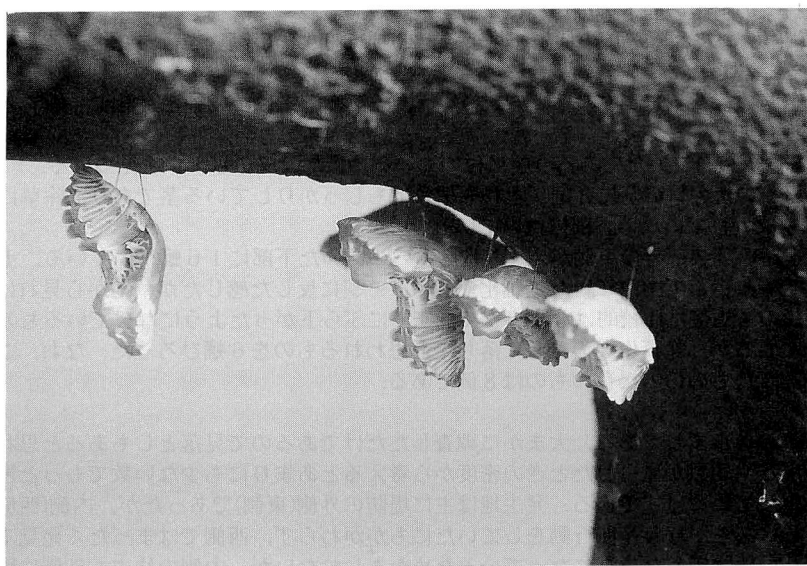
8月26日、多数の個体が見られたが、総じてすれているものが多いように感じた。発生の後期かと思ったが、それは後になって解かったことだが、少し違っていた。8月27日の早朝には、羽化したての2♂を観察し採集した。以後9月中旬まで羽化してくる個体が見られたのである。朝にうちの成虫はオスメスともに草地上を引く飛んでいる。メスは食草を探しては、草の中に潜って産卵をしている。したがって、食草がなさそうに見える場所でもメスが執着したり降りたりしたところにはウマノスズクサがある。オスも低く飛んでいるが、メスがいると追飛して相手にされないときまた草地上を低く飛ぶ。暑い日中には黒いオスは草地には見かけられなくなる。ほとんどメスのみが産卵に励んでいる。実は文化祭に成虫も展示したいと思いそれならば当日の朝採集した個体のほうが都合がよいと考えたのだが、なぜかメスがまったく飛んでおらず採集できなかった。以後注意して観察すると早朝7:00頃にはオスしか飛んでいない。8:00頃になるとメスも飛んでいる。オスの飛翔はメスの探査のためであるといわれるが、これは羽化してくるメスを探していると思われる。交尾中のものを2例観察できたが、メスは羽化したてでまだ羽が柔らかい個体であった。また、オスが羽化しているところも観察できたがそこにもたびたび別のオスがやって来た。羽化したオスはそれが煩わしいのか羽が固まると草地から近くの畑の大豆に飛んでいき休息していた。メスがまったく飛んでいない時間帯にオスがたくさん飛んでいるのは、まさに新しいメスを探しているようである。また、オスは道路上也低く飛ぶため、自動車に轢かれていた個体を数例観察している。夕方にはほとんどの個体が草地から近くの民家の方の木々へ移動して眠るようで、9月11日の夕方6:00頃にはオスが2~3飛んでおり、メスが2頭民家の方向へ飛び去っていくのを観察している。また、メスはアザミの花で吸蜜する。

発生周期について

8月27日に終齢幼虫を2頭採集した。1つは8月28日に前蛹になり8月30日に蛹化した。それが、意外なことに9月9日にオスが羽化した。(もう1つは8/31蛹化, 9/10メスが羽化) また、8月31日と9月2日に野外で採集した蛹も9月9日に1♂1♀が羽化している。また、8月31日に採集した7頭の幼虫が蛹化したもののうち、9/15に2♀, 9/20に1♂羽化し、残りは休眠する模様である。幼虫の期間がどのくらいであるかは調べていないので、8月下旬から9月にかけて見られた個体が3化目なのか4化目なのかは不明である。

9月20日の朝には、3♂1♀しか観察されなかった。堤防の草地も心なしか様子が変わった感じがし、モンキチョウが目立って多くなった。9月26日には成虫もまったく見られず、ウマノスズクサもすべて食い尽くされたようで、どこにあったのかもまったくわからない。恐らく、食草がなくなったので他の場所に移動したものと考えられる。この日、上尾にて産卵中のメスを発見した。その場所には部分的ではあるが、ウマノスズクサはある程度有り、卵・幼虫ともに観察された。





越冬蛹の蛹化場所

ご承知のように堤防は河川管理によって定期的に除草作業が行われている。確か7月頃にやっていたと記憶しているが、例年9月にも行っている。気になって問い合わせたなら、彼岸花が終わった頃予定しているという。数年前彼岸花を刈り取ってしまっひんしゅくを買ってしまったのではないかと想像している。ちなみに今年は彼岸花の開花が幾分遅いように思う。(結局、除草作業は10月11日までには終了していた。) 9月13日に一部錦が原地区の除草が行われていた。キャタピラーで踏み潰されては幼虫も蛹もひとたまりもないと感じた。そこで、蛹だけでも回収しなくてはと考えたのだが、それは無用であった。非休眠の蛹は近くの草の葉や茎に蛹化するが、休眠蛹は発生地から時にかなり離れて、塀や電柱、木々の幹や枝に蛹化するのである。9月29日と10月2日に調査を行い、全部で77蛹を確認した。その概要は次の通りである。

- ① 草地内の太い杭2本にそれぞれ2, 3蛹 (地上10cm・20・40cm)
- ② 草地のふちにある電信柱(コンクリート) 草に覆われた下部に3蛹
- ③ 草地に隣接する水防倉庫に合計16蛹 西側(草地側)のひさしの下に6 西から北側にかけての屋根の下側に6 北側の窓枠の下などに4
- ④ 同じく消防小屋に合計10蛹 プリキで壁面が覆われているため屋根の天井などには付いてない 草に覆われ板が覆い被さる壁面(西側)に4 その板の内側に4 北側壁面に1 (低い位置) 東側に入り口の門に1
- ⑤ 草地内の道路脇の車止めのようなU字形のもの(鉄でできているがさびている)に15蛹 うち11は下側に付いており横に付いているものは4である。
似たような位置にある道路標識の類には付いていない、塗装してあるものは好まない様子
- ⑥ 堤防下の建物のコンクリート塀 大きな柳の木の陰にあたる部分に2蛹、柳の木の幹に1蛹 どの場所もコンクリート塀には見られない。
- ⑦ 土手下の民家の廃材置き場に6蛹 うち2のみ褐色型
- ⑧ その傍のフェンスの支柱(木)に3蛹
- ⑨ フェンスの内側のビニールハウスの袖の部分(トタンでできている)に8蛹
- ⑩ 草地の中の地下水観測所という装置の丸い穴のあいたカバーの内部に10蛹 この中の蛹は羽化しても外には出られそうもない。堤防の河川側(西側)にも同じ装置があるがそこには付いていない。
- ⑪ 民家の垣根の樹木の細い枝に1蛹
除草作業の終わった後の様子を見ようと10月18日に再度調査を行ったところさらに54蛹を確認した。
- ⑫ 道路の縁石(コンクリート)3箇所 4蛹・5蛹・13蛹・2蛹と合計19蛹 どれも東側で概ね草に覆われていたであろう所に付いている。また脱皮がら1つを見つける。
- ⑬ 縁石の傍の草の茎に8蛹 どれも枯れてもしっかりしている茎であり、除草によって刈り取られていない下部に付いている。
- ⑭ 道路の舗装部分の下側がえぐり取られ穴のあいた下部に16蛹付いている。土との隙間であり少しでも上に行って蛹化するイメージに反した感じだが草地から見れば上である。
- ⑮ 蛹の糸や帯は比較的是なれやすく、すでにぶら下がったようになっているものも見受けられるが、除草作業のときに落ちたと思われるものを6蛹ひろった。なお、この日に確認したものの内褐色のものは8例である。

以上がそのあらましである。大まかに調査しただけであるので見落としもあると思われる。が、発生地の広さや幼虫が見られたときの密度から考えるとあまりにも少ない数でもっと遠くや違う場所に蛹化しているはずである。発生地は主に堤防の外側(東側)であったが、内側(西側)にも食草はあったしメスもかなり産卵行動をしていたにもかかわらず、西側ではまったく発見できなかった。めぼしい建物等もなく畑になっているためかもしれないが、内側の幼虫も外側に移動して蛹化するのかもしれない。また、蛹化する場所は垂直な部分か下側であるようだ。羽化するときのことを考慮すれば自ずとそうなるものかもしれない。

なお、桶川においても荒川の堤防横に立つ鉄筋の建物(平屋)にジャコウアゲハの蛹がついているのを発見した。これらはすべて屋根の天井部分でただ位置が東側(草地の反対側)が主である点が異なっている。(10数蛹)

また、休眠蛹は黄色ではなく褐色型ではないかといわれているが、羽の部分は多少褐色ではあるが非休眠蛹と変わらないように思われる。褐色型は数例である。さらに、今回確認した蛹の中に明らかに死亡して変色しているもの、蛹化に失敗しているものも2、3含まれている。

発生地概要

大宮市西遊馬の荒川右岸堤防が発生地である。馬宮東小学校前付近から錦が原との境界付近までの堤防上の道路の東側が主たる分布地で、西側にもある程度は発生していた。概ねこのエリアを外れると食草がほとんど見られない。錦が原地区の堤防上も若干の食草があり時折産卵が観察された。他の場所については調べていない。

今年だけの大発生なのか

なぜ今年これほどの大発生をしたのか考えてみたい。これまでの年も発生はしていたのかもしれない。食草もあれだけあれば当然発生していたはずであるが、これまで何年も毎日通勤に通過していた場所にもかかわらずジャコウアゲハがいることに気づかなかったとは考えにくい。最初にジャコウアゲハを道路脇で見たときあの飛翔の仕方に違和感を覚えたくらいである。(もっとも8月17日から通過しているにも関わらず気づいていない。)また、休眠蛹を確認したとき脱皮殻が1つもなかったことを考えると、近年になかったことなのかもしれない。記録的な猛暑であったことが大発生に関係があることは確かであろう。加えて、8月14日の大雨による洪水で堤防の内側は水を被り、たとえば、もっと荒川の流れに近い発生地から追われた成虫が食草のある場所に集まった結果とも考えられる。ただし、それでは8月27日にすぐに蛹化するような終齢幼虫がいるということと矛盾してしまう。9月15日頃まで多数いた成虫が20日にはほとんど見られなくなるように、食草を求めて移動分布拡大をする習性のある本種であるので、猛暑のためどこかで多数発生した個体による一時的な発生と考えたい。ただし、休眠蛹が生存しているので少なくとも来年の1化からの発生は確実であるので今後も見守っていきたい。

他の場所においてもこのような大発生が見られたと思われるので、ご教授いただければ幸いです。

蛇足

今回偶然発明した事柄をもう1つ。幼虫の採集・運搬・飼育・成虫の羽化箱に手軽な方法である。ペットボトルの上部(肩のあたり)をナイフで切り中に入れる。それだけである。切込みを大きめに開けた場合はセロテープで止めておく。きわめて取り扱いの良いことが今回経験できた。お試しあれ。

(おぎしま かずみ 〒365-0028 鴻巣市鴻巣1183-14)

奥武蔵高原でまぼろしのゼフィルス2種を採集

萩原 昇

小川町・都機川村・横瀬町・東秩父村・秩父市にまだがる堂平山・丸山等を中心にした700～960m前後の山地には、埼玉県内では少ないミズナラ・カシワ等の落葉広葉樹林が点在し、ゼフィルスの産地として古くから知られ、「奥武蔵高原」と呼ばれている。

この地域で特に注目される記録は、堂平山から白石峠にかけてのカシワ等の林で1960～1970年代にかけて採集されたウスイロオナガシジミ・ウラジロミドリシジミ・ハヤシミドリシジミ等の埼玉県内では生息場所の少ない蝶の貴重な記録が残されている。残念なことに堂平山に天文台が建設された頃より、カシワ林が急激に減少し、それまで多産していたウラジロミドリシジミやハヤシミドリシジミが激減し、その後の記録がなかった。

筆者は、1999年7月10日に築比地秀夫氏とともに堂平山から丸山にかけての調査を行い、大野峠周辺のカシワ林で、近年、採集記録のなかったハヤシミドリシジミ1♀とこれまで県内では秩父市以西でしか記録のなかったアイノミドリシジミの1♂を採集した。この他、オオミドリシジミ・ミズイロオナガシジミ・ウラナミアカシジミの棲息も確認した。

ハヤシミドリシジミとアイノミドリシジミの採集データを標本写真を添えて報告する。

Favonius ultramarinus (FIXSEN, 1887) ハヤシミドリシジミ

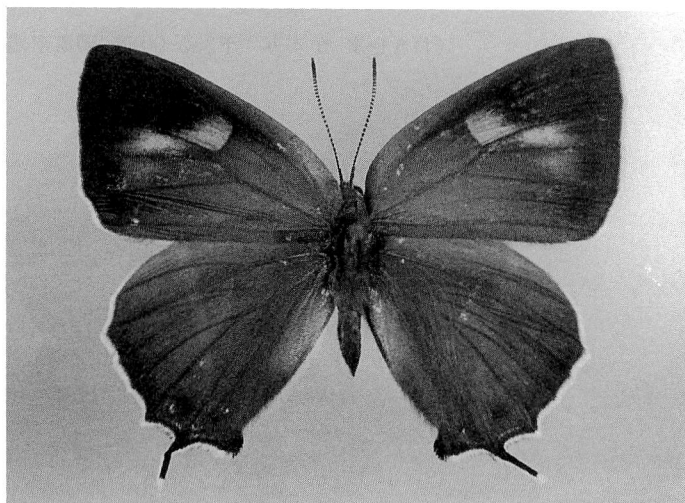
横瀬町大野峠: 1♀, 1999. 7. 10, 萩原 昇.

Chrysozephyrus brillantinus brillantinus (STAUDINGER, 1887) アイノミドリシジミ

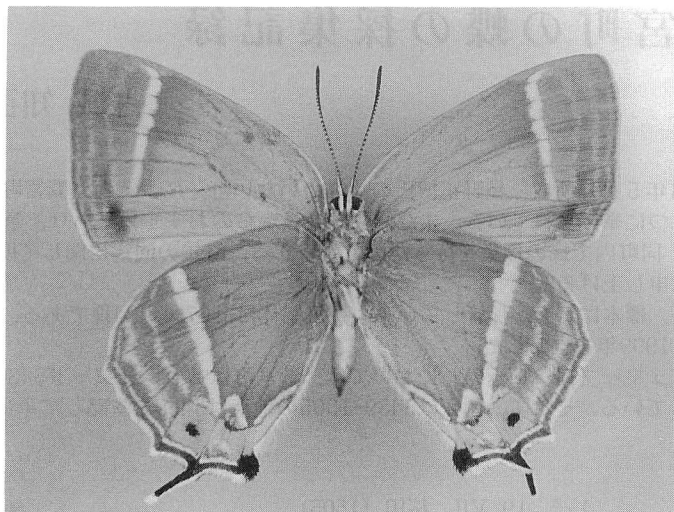
横瀬町大野峠: 1♂, 1999. 7. 10, 萩原 昇.

なお、この採集に使用したつなぎ竿は、故市川和夫氏が小川町史の調査のために購入したものを使用した。

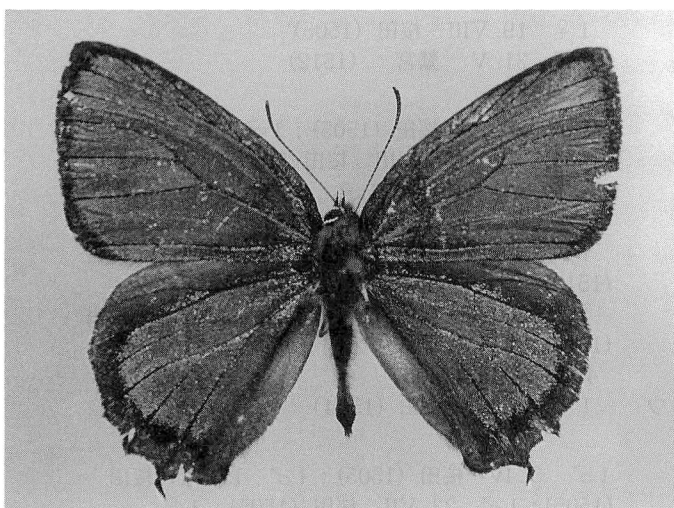
1960年頃に比較すればかなり環境が変化し、ゼフィルス類にとって悪い環境になったものの、まだ、僅かではあるが棲息していることを確認できた。今後の調査で、上記の種以外のゼフィルスが再発見出来ることを期待する。



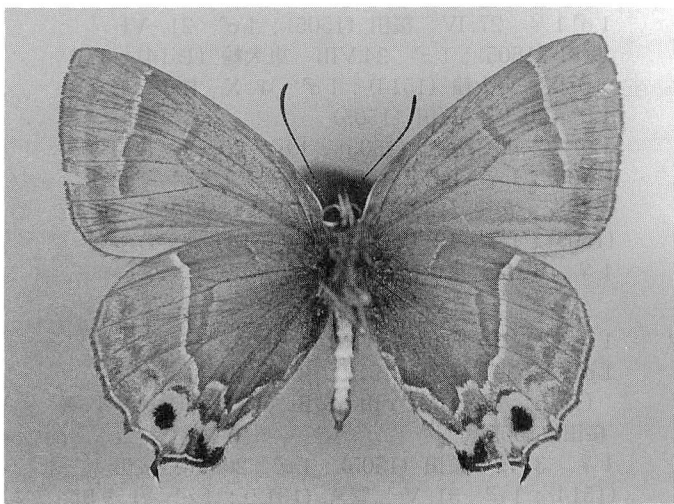
採集したハヤシミドリシジミ
♀ 表面



採集したハヤシミドリシジミ
♀ 裏面



採集したアイノミドリシジミ
♂ 表面



採集したアイノミドリシジミ
♂ 裏面

鷺宮町の蝶の採集記録

古城 知己

「縁友路地」No.65 (1998年5月)所収, 星野正博氏の“蝶のいない町”によると, 鷺宮町は蝶の記録・報告のない町の1つに挙げられている。また, 牧林会長からのおすすめもあり, 筆者は1999年4月から10月まで, 同町内で蝶の採集を行ったので報告する。雌雄の同定に関して助言くださった若菜一郎氏に感謝申し上げる。

以下は全て採集記録であり, 標本は筆者が保管している。採集個体は計67頭, 24種である。

採集日の表示に関しては, 1999年を省略した。

環境庁「都道府県別メッシュマップ11, 埼玉県」においては, 鷺宮町はメッシュコード5439-05および5439-15内に位置している。そこで, 例えば5439-1505の地点は5439を省略して単に1505と表した。

[アゲハチョウ科]

- | | | | |
|------------|----|---------|-----------|
| 1. アオスジアゲハ | 1♂ | 19.VII | 桜田 (1505) |
| 2. キアゲハ | 1♂ | 25.VIII | 桜田 (1505) |
| 3. アゲハ | 1♀ | 19.VIII | 桜田 (1505) |
| 4. クロアゲハ | 2♂ | 31.V | 鷺宮 (1512) |

[シロチョウ科]

- | | | | |
|--------------|-------|-------|--|
| 5. キチョウ | 2♂ | 20.IV | 桜田 (1505); 1♂ 21.VI 桜田 (1505); 1♂ 25.VIII 桜田 (1505); 1♂ 19.IX 東大輪 (1514); 1♂ 4.X 桜田 (1505) |
| 6. モンキチョウ | 2♂ 1♀ | 20.IV | 八甫 (1515) |
| 7. ツマキチョウ | 1♂ | 20.IV | 桜田 (1505); 1♂ 27.IV 鷺宮 (1512) |
| 8. モンシロチョウ | 1♂ | 20.IV | 桜田 (1514); 1♂ 20.IV 八甫 (1515); 1♂ 27.IV 上内 (0593); 1♂ 4.X 桜田 (1505) |
| 9. スジグロシロチョウ | 1♀ | 6.VI | 桜田 (1504) |

[シジミチョウ科]

- | | | | |
|-------------|-------|-------|--|
| 10. ベニシジミ | 1♂ | 3.IV | 桜田 (1505); 1♂ 12.IV 桜田 (1505); 1♂ 23.VII 桜田 (1505); 1♀ 4.X 桜田 (1505) |
| 11. ヤマトシジミ | 1♂ 1♀ | 27.IV | 桜田 (1505); 1♂ 21.VI 桜田 (1505); 1♂ 24.VIII 東大輪 (1514); 1♂ 16.IX 東大輪 (1514); 1♂ 4.X 桜田 (1505) |
| 12. ルリシジミ | 1♂ | 20.IV | 桜田 (1505) |
| 13. ツバメシジミ | 1♂ | 2.IV | 桜田 (1505); 1♂ 20.IV 桜田 (1505); 1♀ 20.IV 八甫 (1515); 1♂ 27.IV 桜田 (1505); 1♂ 21.VI 桜田 (1505); 1♀ 19.IX 東大輪 (1514) |
| 14. ウラギンシジミ | 1♀ | 6.IX | 東大輪 (1514) |

[タテハチョウ科]

- | | | | |
|--------------|----|---------|--|
| 15. イチモンジチョウ | 1♀ | 24.VIII | 東大輪 (1514) |
| 16. コミスジ | 1♂ | 27.IV | 鷺宮 (1512); 1♂ 31.V 鷺宮 (1512); 1♂ 9.VIII 桜田 (1505); 1♂ 4.X 桜田 (1505) |
| 17. キタテハ | 1♀ | 3.IV | 桜田 (1505); 1♂ 20.IV 桜田 (1514); 1♂ 31.V 鷺宮 (1512); 1♂ 9.VIII 桜田 (1505); 2♂ 5.IX 鷺宮 (1512) |
| 18. ルリタテハ | 1♂ | 27.IV | 鷺宮 (1512) |
| 19. ゴマダラチョウ | 1♂ | 18.V | 桜田 (1505) |

[ジャノメチョウ科]

20. サトキマダラヒカゲ 1♂1♀ 31.V 鷲宮 (1512)
 21. ヒメジャノメ 1♂ 18.V 桜田 (1505); 2♂ 31.V 鷲宮
 (1512); 2♂1♀ 26.VIII 鷲宮 (1512); 1♂
 5.IX 鷲宮 (1512)

[セセリチョウ科]

22. ギンイチモンジセセリ 1♂ 27.IV 桜田 (1505)
 23. チャバネセセリ 1♂ 24.VIII 西大輪 (1514)
 24. イチモンジセセリ 2♂ 25.VIII 桜田 (1505); 1♂ 5.IX 桜田
 (1505); 1♂ 4.X 桜田 (1505)

(こじょう ともみ 〒340-0203 埼玉県北葛飾郡鷲宮町桜田3-5-1-9-108)

県南部におけるアサギマダラを目撃例

天野 来人

1999年10月11日、川口市の見沼自然の家で、アサギマダラを目撃しました。雄か雌かわかりませんが、1個体が空を舞っていました。

低くとぶと風に乗って高く飛びました。低地で見るのはあまり機会がないので報告しました。

(あまの らいと 〒339-0037 岩槻市浮谷6-1)

見るチャンスの少ない埼玉県 関係の甲虫類の報文の紹介

奥谷 禎一

当会の会員では見るチャンスの少ない埼玉県からの甲虫2種の記録を紹介しておく。

1. 鈴木 英明: 川越市の木造家屋から発見されたチビナガヒラタムシ (甲虫目: チビナガヒラタムシ科) について. 家屋害虫 21(1): 35-38. 1999年7月.

川越市木野目町 (原文は木目町となっています)
1999年1月13日 発見.

2. 山口 健三: 木造家屋を加害したルリボシカミキリ (甲虫目: カミキリムシ科). 家屋害虫 20(2): 79-81. 1998年12月.

新座市の木造住宅で5月と6月に発生。5月26日, 17♂11♀; 6月21日, 3♂4♀が得られている。加害樹種はハンノキとムクノキ。

(おくだに ていいち 〒350-1109 川越市霞ヶ関北1-20-14)

岩槻市槻の森スポーツセンターにて ミドリシジミ観察会を開催

天野 来人

1999年6月27日に、岩槻市槻の森スポーツセンターにおいて、ミドリシジミの観察会をしました。6月15日に観察に行った時は、約10頭を観察することができましたが、当日は雨のためか2、3頭くらいしか、確認することができませんでした。

採集したもの ミドリシジミ（メス、O型、1頭）／ナミアゲハ

目撃したもの チョウトンボ／オオスズメバチ／コガタスズメバチ／カナブン／アシナガバチ／ヤマトシジミ／ツバメシジミ／コムスジ／サトキマダラヒカゲ

雨の中、観察会にて、ご協力をいただいた牧林さん、萩原さん、鈴木さんに深く感謝し、本文をお借りしてお礼もうしあげます

(あまの らいと 〒339-0037 岩槻市浮谷6-1)

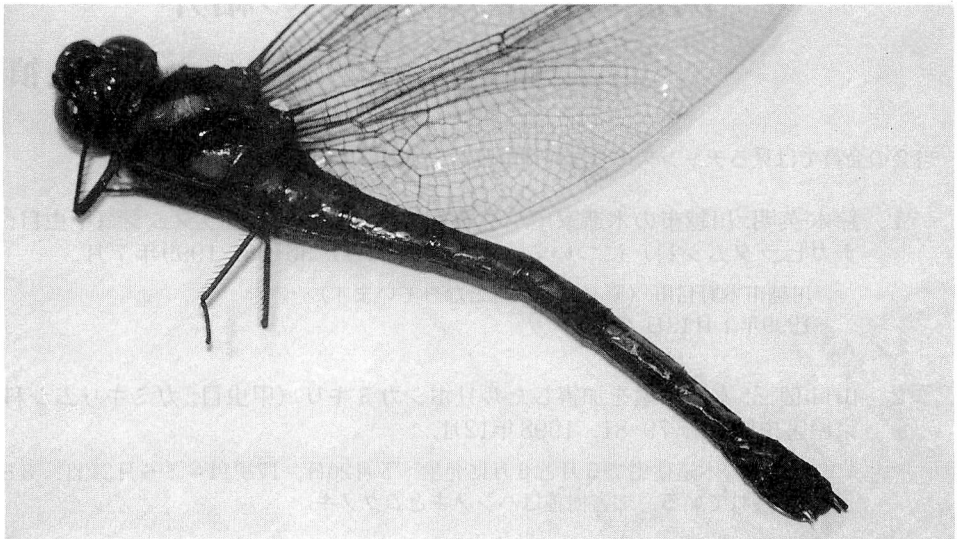
岩槻市でヤブヤンマを採集

天野 来人

1999年6月16日に、岩槻市立和土小学校（メッシュマップ地点 5339-7507）で、ヤブヤンマを採集したので報告します（2頭採集して全てメスの個体です）。

『埼玉県昆虫誌I 第1分冊』によると、県東部の平野部での記録は少ないようです。昨年、この和土小の廊下で、ヤブヤンマを目撃しており、和土小周辺の自然の豊かさが、うかがわれます。

今回のヤブヤンマの同定において、牧林さんにお世話になりましたことを、本文をお借りしてお礼申し上げます。



(あまの らいと 〒339-0037 岩槻市浮谷6-1)

北本市で採集されたオオカマキリの卵莢から脱出したカマキリヤドリキモグリバエ (本州初記録)

玉木 長寿

はじめに

1999年6月25日に行われた当会の「金曜ゼミ」の席上、小堀文彦氏から、北本市在住の宮崎あやかさん(当時13才)が北本市で採集したオオカマキリの卵莢(卵塊を分泌物で包んだ莢)1個と、それから脱出した1群の小型のハエ(成虫)と、カツオブシムシ科の1種と思われる小型の幼虫1頭が手渡され、それらのうち、小型のハエの標本群を検べる機会が与えられた。

その後の検討の結果、これらの1群の小型のハエ(成虫)標本は、♂の第3触覚節には触覚刺毛があるが、♀の第3触覚節には触覚刺毛は全くなく、第3触覚節の背端隅は上方に著しく細長い1突起として伸びて居り、♂♀間での第3触覚節の形状の顕著な差異や、触覚刺毛の有無などの変異を含む特異な形質を具える種 *Kurumemyia ongamea* KANMIYA, 1983 カマキリヤドリキモグリバエ(キモグリバエ科)であることがわかった。

この中の *Kurumemyia* 属は Chloropidae (キモグリバエ科) 中の Oscinellinae (ナガミヤクキモグリバエ亜科) に含まれる属で、現在はこの属の種としては、知る限りでは、上掲の1種のみが知られている。(KANMIYA (1983) [文献1] によれば、この様な特異な触覚と触覚刺毛の特徴を具えている種は、キモグリバエ科の他の種の中には見出せないと附記されている)。

本種は日本産昆虫総目録では、分布：九州とされ、本州は未記録であった。

したがって、上掲の本種の北本市産の寄主からの記録は本州初記録となり、同時に「埼玉県の双翅類」[文献3, 4以後]への追加種となる。

また、本種が寄生、脱出したオオカマキリの卵莢は、知る限りでは、本種の寄主としての新記録となる。

採集記録

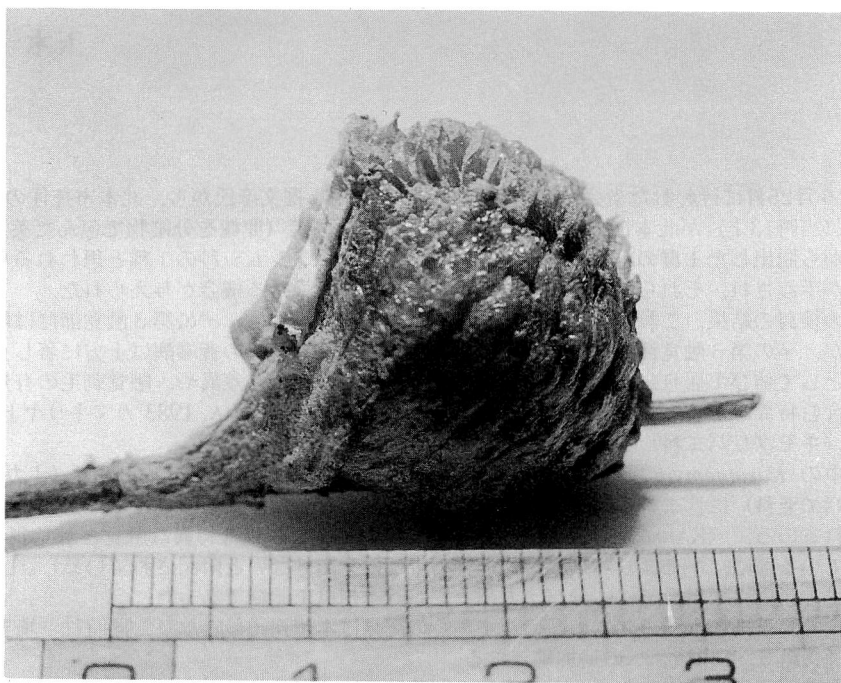
- ・ 寄生者：*Kurumemyia ongamea* KANMIYA, 1983
カマキリヤドリキモグリバエ(キモグリバエ科)。(写真2~4)。
性別・個体数：10♂, 2♀
- ・ 寄主：*Tenodera aridifolia* (STOLL) オオカマキリ(カマキリ科)の卵莢(写真1)
同 採集地：埼玉県北本市石戸7丁目。
同 採集日：中旬.V.1999。
同 採集者：宮崎あやか。
- ・ 寄主の飼育者(オオカマキリ成虫脱出後)：小堀文彦。
(オオカマキリ成虫脱出後の寄主(卵莢)の飼育は密閉容器内で行われた)。
寄生者(カマキリヤドリキモグリバエ)の脱出に気づいた日：15.VI.1999。
寄主(卵莢)と寄生者の標本管理者：玉木長寿。

主な形態的特徴

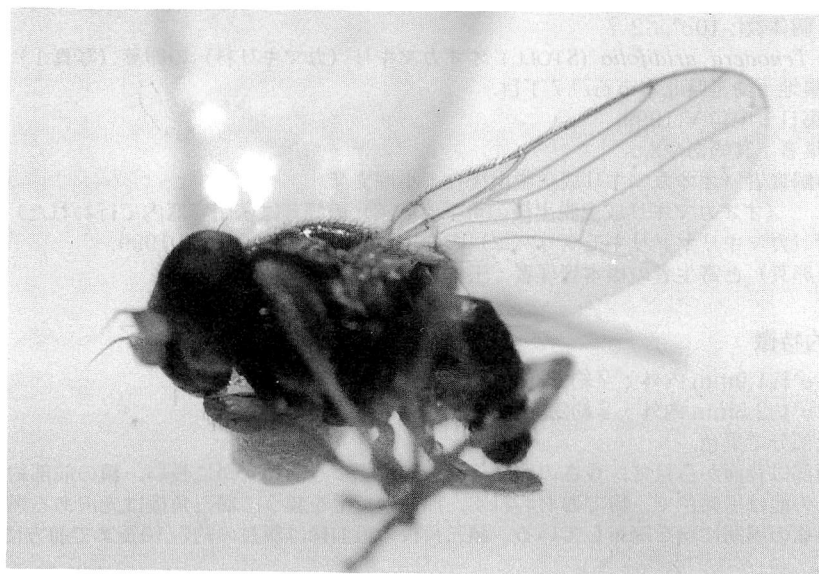
体長：♂約1.9mm 内外；♀約2.7mm 内外。
翅長：♂約2.5mm 内外；♀約2.5mm 内外。
体は大部分で黒色。

頭部：頭部は背面から見て、長さの約2倍幅。額は幅よりもわずかに長い。額の前部約2/7程は橙黄色、その他は黒褐色で、粉でおおわれず、黒色の短毛を装う。額三角板は光沢ある黒色、頭頂隅と単眼瘤の周囲に粉を疎布している。額三角板の最前縁は額長の約7/10長まで前方に伸びている。

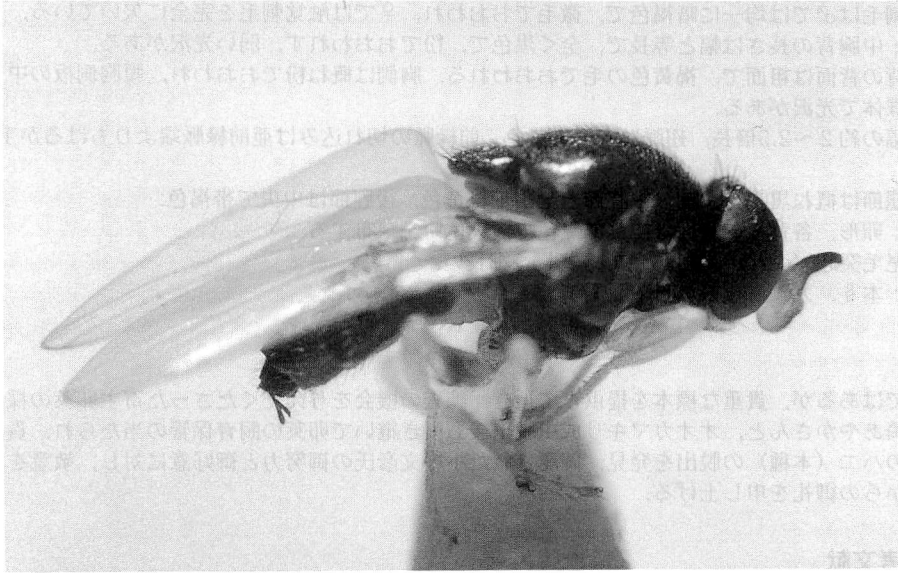
顔は淡黄色で帯白色の粉でおおわれ、長さよりもわずかに幅広く、その高さの中央を超えて伸びる幅狭く、低い1中隆起がある。



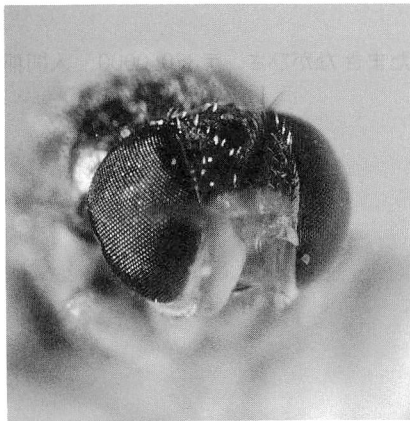
1 寄主 *Tenodera aridifolia* (STOLL) オオカマキリ (カマキリ科) の卵莢 (埼玉県北本市産)



2 寄生者 *Kurumemyia ongamea* KANMIYA, 1983 カマキリヤドリキモグリバエ (キモグリバエ科) ♂



3 寄生者 *Kurumemyia ongamea* KANMIYA, 1983 カマキリヤドリキモグリバエ (キモグリバエ科) ♀



4 同上 ♀ (頭部斜前面)

頬は極めて幅狭く、複眼長径の約1/10倍高で、銀白色の粉を密布する。

小顎肢は淡黄色、触覚は橙黄色で、その第3節は、側面からみて、♂では概ね心臟形で、その背基隅では幅狭くなって居り、♀ではその背端隅で、顕著に細長い1突起として上方に伸び、その突起部では暗褐色となる。

触覚刺毛は♂では均一に暗褐色で、微毛でおおわれ、♀では触覚刺毛を完全に欠いている。

胸部：中胸背の長さは幅と等長で、全く黒色で、粉でおおわれず、弱い光沢がある。

中胸背の背面は粗面で、褐黄色の毛でおおわれる。胸側は概ね粉でおおわれ、腹胸側板の中央部では裸体で光沢がある。

翅：幅の約2～2.5倍長、翅脈はすべて黄色。前縁脈の切れ込みは亜前縁脈端よりもはるか手前にある。

脚：腿節は概ね黒褐色。前、中脛節と全附節は黄色。後脛節は中央で帯褐色。

腹部：卵形、各背板の背面はすべて黒色で、灰色粉を疎布する。

♀の尾毛突起 (cercus) は黒色で、著しく細長い。

分布：本 8, 九。 (※ 本州初記録)。

謝辞

末筆ではあるが、貴重な標本を提供して頂き、調査の機会を与えてくださった寄主卵英の採集者・宮崎あやかさんと、オオカマキリ成虫脱出後も引き継いで卵英の飼育保管の当たられ、貴重な小型のハエ（本種）の脱出を発見、確認された小堀文彦氏の御努力と御好意に対し、敬意を表し、心からの御礼を申し上げます。

主な参考文献

1. KANMIYA, K. (1983) A systematic study of the Japanese chloropidae (Diptera) Mem. ent. Soc. Wash., 11: 370pp.
2. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生動物研究センター・共編 (1989) 日本産昆虫総目録, II : 541-1088.
3. 玉木 長寿 (1997) 埼玉県の双翅類, 埼玉県昆虫誌 II (双翅目), 埼玉昆虫談話会・発行: 405pp., 108図.
4. 玉木 長寿 (1999) 『埼玉県の双翅類』への訂正と追加, 埼玉県昆虫誌・別巻, 埼玉昆虫談話会・発行: 37-56, 12図, 188-222.

(たまきながひさ 〒350-0000 入間郡毛呂山町前久保332-122)

オオセスジイトトンボを鷺宮町（埼玉県）で採集

古城 知己

1999年6月21日、筆者は継続的にトンボの生息調査を行っている自宅近くの調整池で、思いがけずオオセスジイトトンボ1♂を採集したので報告する。標本は筆者が保管している。

オオセスジイトトンボ *Cercion plagiosum* (Needham)
 1♂ 21.VI.1999 埼玉県北葛飾郡鷺宮町桜田、沼井公園調整池
 (メッシュコード5439-1505)

この個体は、岸辺に生えた高さ2メートル余りのヨシの草むらの間をオオイトトンボなどに混ざって飛んでいたものである。

文献によると、本種は現在埼玉県における絶滅危惧種であり [1]、埼玉県での発見は1964年以来途絶えているとのことである [2]、[3]。

その後、9月下旬まで計16回同池で観察・採集を試みたが、2頭目以降を発見することはできなかった。(なお、この間6月29日には、ベニイトトンボ1♂を採集したことを付記しておく。ベニイトトンボに関しても、発見できたのはこの1頭だけであった。) また、水辺環境の優れた近辺の池数カ所も何回か観察したが、ここでも発見することはできなかった。

採集個体がどのような経緯でこの池に出現したのかは不明である。中川水系のどこかからの偶然的飛来、移植植物や鳥による卵またはヤゴの移動といった可能性は考えられると思う。また、他産地で採集された成虫またはヤゴが放された可能性もあるかも知れない。埼玉県北東部における同種の生息は、不確実情報としては最近でも言われていたようであるが、定常的な生息地発見の可能性も出てきたと考えている。

ここで、発見地である「沼井公園調整池」について簡単にふれておく。ここは、公団団地の造成とともに10数年前にできた周囲約300メートルの人工の調整池であり、水深は1メートル前後、もともとは周囲をコンクリートの護岸で固めたつまらない池であった。トンボもオオヤマトンボ、ウチワヤンマ、シオカラトンボ、コシアキトンボそれにアジアイトトンボ程度しかいなかった。ところが、3年前に護岸の一部を壊しヨシなどの挺水植物を植えたり、浮島を作ったりしたおかげでトンボの種類も次第に増えてきており、1999年の観察では21種類に達している。この中には上記の2種以外にも、ムスジイトトンボやマイコアカネなど比較的珍しい種類が見られる。この池の水は基本的に雨水のみによって構成、補充されており、家庭排水や農薬の入った田圃の水の流入がないこと、水面を覆い隠すばかりにマツモやクロモが繁茂してきたことなどが人家の近くにありながら豊富なトンボ相が形成されつつある要因ではないかと考えている。なお、沼井公園調整池におけるトンボ相の消長については、別の機会に報告する予定である。

最後に、ムスジイトトンボの存在その他多くに亘って御教示くださった、碓井徹氏に感謝申し上げます。

参考文献

- [1] 『さいたまレッドデータブック ー埼玉県希少野生生物調査報告書 動物編一』, 埼玉県 (1996)。
- [2] 長須 房次郎 (1978) 埼玉のトンボ目, 『埼玉県動物誌』, 埼玉県教育委員会: 403-432.
- [3] 碓井 徹, 鈴木 幸, 斉藤 洋一 (1998) 埼玉県のトンボ目, 『埼玉県昆虫誌 I (第1分冊)』, 埼玉昆虫談話会: 21-50.

(こじょう ともみ 〒340-0203 埼玉県北葛飾郡鷺宮町桜田 3-5-1-9-108)

秩父のクロツバメシジミ

石塚 正彦

秩父のクロツバメシジミ (*Tongeia fischeri*) について1992年より調査してきました。分布は広範囲に渡っているものの、どの生息地も個体数、食草のツメレンゲ共非常に少なく、又、生息環境もアプローチ出来ないような厳しい崖での発生が主である。そんな状況下、比較的、簡単にアプローチ出来るような生息地は、採集庄（食草の採集を含む）によって、簡単に絶滅に追い込むことが出来る。そのため、発表するのを控えていたが、地名の表示を場所によって、大字までとすること、又、ここに来てクロツブームも一段落したようなので、発表することにした。

① 秩父市黒谷

埼玉のクロツとして全国的に、最も知れ渡ったところで、採集者も多い。そのためか、ここ2～3年、個体数、ツメレンゲ共、激減している。

1993年 5月15日	1♂採集	1993年 8月28日	6頭観察, 3蛹, 2幼採集
1993年 7月12日	3頭観察	1993年 9月25日	1♀採集, 2蛹, 4幼採集
1993年 7月17日	1頭観察	1993年10月23日	6頭観察
1993年 8月 7日	1頭観察	1994年11月 5日	2頭観察, 8卵採集

② 秩父郡長瀬町井戸

最初に発見したのは、関東甲信越のクロツを精力的に調査している方（東京都の里中正紀氏）より教えていただいたところである。発見当初は、個体数も多かったようであるが、食草のツメレンゲも少なく一度大発生するとツメレンゲを食べ尽くすらしく（秩父地方全般に言える）その翌々年にはツメレンゲも殆ど無くなり、その年は筆者も確認できず、又、他の情報からも確認できてないとのことである。しかし、1998年には、再び発生を始め、その後も細々と生き延びているようだ。

1996年 5月15日	1♀採集	* ¹ 1996年 7月29日	1♂1♀採集
1996年 6月 2日	2♂観察	1998年 5月10日	2♂観察

③ 秩父郡皆野町下田野

千葉県の西原幸雄氏より下田野での生息地を発見したとの情報をいただき調査し、その西原氏の発見した場所とは違う場所で発見した。ツメレンゲはある程度は生えているが、日当たりが多少、悪いせいか、苔のように生えたツメレンゲが多い。

1998年11月 7日 3卵採集

④ 秩父郡皆野町日野沢

蝶の即売会でラベルを見て、この付近にも生息地があることを知り、調査し発見したところである。その他、千葉の西原氏の話によると付近にもう一カ所生息地があるとのこと。

1996年10月25日	1♀採集	1997年11月 1日	2♂採集
-------------	------	-------------	------

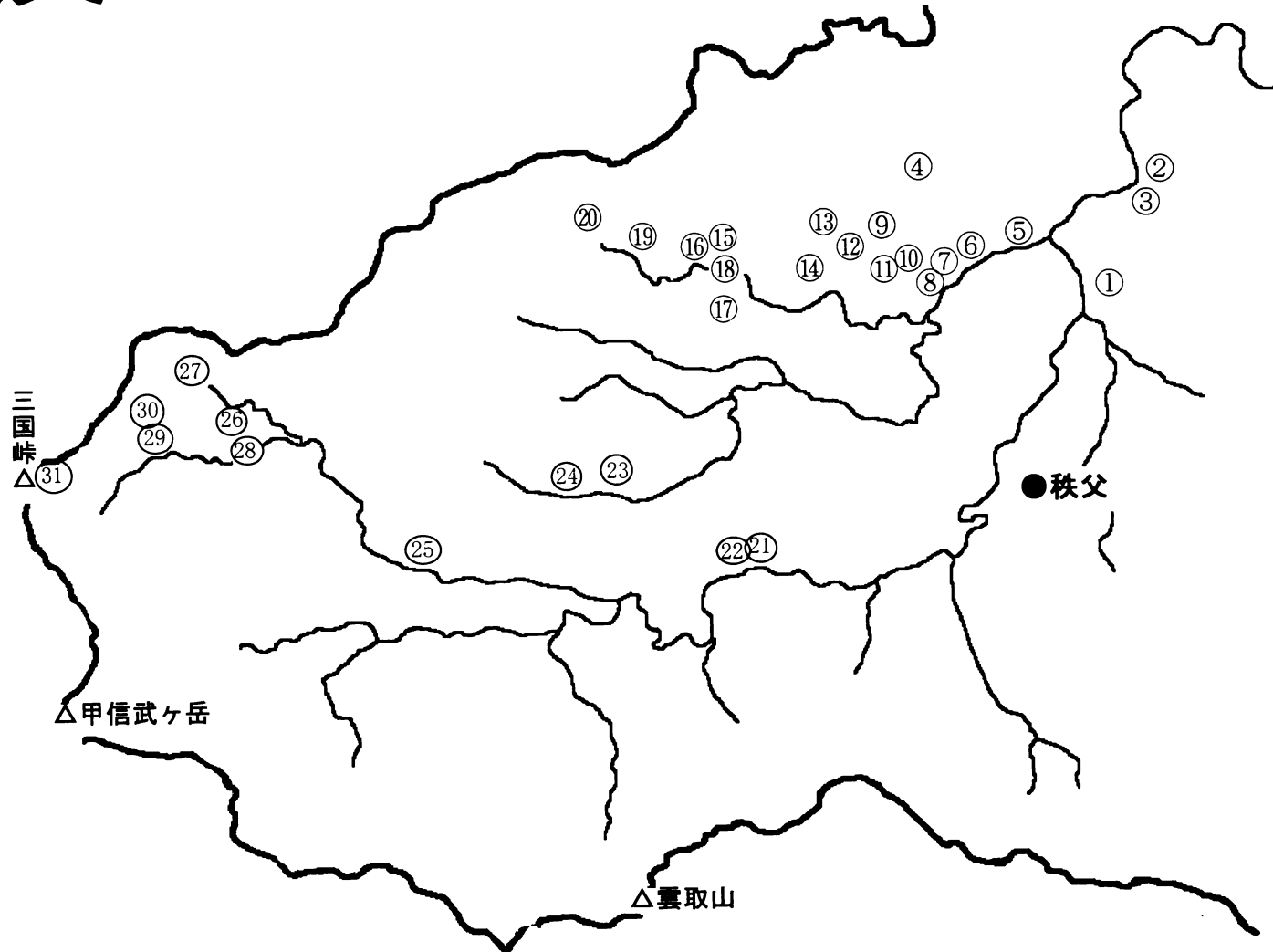
⑤ 秩父郡皆野町大淵

ここの発生地は秩父では珍しく、崖と言ってもなだらか岩で、ツメレンゲも非常に少なく、又、一部草むらに隠れた土の上にもツメレンゲが生えている。発生も不定期で、春夏は殆ど見られず、秋のみ確認している。恐らく付近にホストの発生地があり、そこから飛来していると思われるのだが、全く付近に発生地を確認できず不思議にな所である。

1994年11月12日	1♀採集, 2卵採集	1997年11月 1日	1♀採集, 1頭観察
1997年10月25日	1♂1♀採集		

秩父のクロツバメシジミ分布図

1999年12月



寄世蝶記(93): 2787

⑥ 秩父郡皆野町野巻

会社の同僚にツメレンゲがあるとの情報をいただき、発見したところである。非常に厳しい崖で、ツメレンゲがある崖の中腹のテラスに登ったのはいいものの、降りるに降りられず、スズメバチの巣もあり、非常に怖い思いをした場所である。又、ここはマルバマンネンとツメレンゲが自生しており、ホストはツメレンゲと思われるが、非常に少ないため、マルバマンネンも食しているかもしれない。

1993年9月18日 3頭観察、5幼採集 1993年11月7日 1頭観察、3幼採集

⑦ 同上

以前より良い崖だとは思っていたが、アプローチが難しそうなため、諦めていた場所である。しかし、友人に同行いただき、何とかクリア出来た。この時、崖の麓で以前、秩父のカラスシジミ（寄世蛾記(69):1539）で報告した、カラスシジミの食樹ハルニレを同時に発見している。

1993年10月23日 2頭観察、1♀採集

⑧⑨⑩⑪ 秩父郡吉田町久長

久長での第一発見者は秩父市の久保栄二氏で（合角ダム調査時）、その後、筆者が付近を調査し3カ所、追加した。

この付近は比較的危険の少ない岩場での発生であるが、どこもツメレンゲ、個体数とも非常に少なく、発生も不定期である。その理由として、長滞の所で前記したように、一度発生するとツメレンゲを食い尽くされ、ツメレンゲが少なくなると発生が終わり、再びツメレンゲが回復すると、付近の発生地から飛来した個体により、発生が始まるようだ。実際に最初はツメレンゲがある程度、沢山あり発生していなかった場所も、発生が始まり、2～3年経過するとツメレンゲ、個体数が減り、発生が止まりそうな場所を確認している。

⑧ 1994年11月13日 1卵観察、1卵採集

⑨ 1996年10月20日 5頭観察、1♀採集

⑩ 1994年10月9日 4幼採集

1995年9月10日 1♂採集

1994年10月23日 5頭観察

1995年10月15日 5頭観察、1♀採集

1994年10月30日 9卵採集

1995年11月5日 5頭観察、1♀採集

1994年11月13日 6頭観察

1995年11月19日 1頭観察

1995年4月16日 1蛹観察

1998年10月4日 1頭、1幼観察

⑪ 1994年10月23日 1頭観察、2卵採集

1995年11月5日 3頭観察、4卵採集

1996年5月15日 2頭観察

⑫⑬ 秩父郡吉田町阿熊金岳付近

ここ金岳は中国の墨絵を思い浮かべさせるような岩山であり、必ずクロツの発生場所はあると思われるが、非常に険しい岩山のため、アプローチ出来ず、その隣の山の崖より確認している。ここの崖もアプローチが難しく、その後、2、3度チャレンジしているが、その崖にたどり着けず、迷ってしまった。そのため、筆者の保有するクロツの個体数も非常に少ない。しかし、付近で、もう一カ所確認出来た場所には、小さい崖であるが、道路の脇にあり、アプローチも楽な場所である。

⑫ 1993年11月14日 3卵採集

⑬ 1993年10月9日 2頭観察、1♂、5卵採集

1995年10月14日 6頭観察

⑭ 秩父郡吉田町半根子

ここ半根子は1977年埼玉県で初めて、クロツバメの確実な生息地が所沢昆虫同好会の人たちによって、発見された場所である。又、埼玉のクロツとして黒谷に次、全国的に有名な場所でもある。

筆者が確認したのは、その場所ではないが付近を調査し発見している。又、付近にはまだまだ良い崖があるので、他にも生息地があると思われる。

1993年10月24日 1♂採集 1995年10月30日 8頭観察、2♀採集
1995年10月29日 4頭観察

⑮ 吉田町明ヶ平

この生息地は、合角付近を調査した時にツメレンゲまでは確認したが、残念ながらクロツは発見出来なかった場所である。しかし、その後、千葉の西原氏によって、その場所からクロツが確認された。

1997年10月24日 1♂1♀ (西原幸雄氏採集)

⑯ 吉田町女形

この生息地も合角付近を調査した時に発見した場所で、アプローチも楽で崖も緩やかなので比較的安全な所(人間にとって)である。個体数、ツメレンゲとも少ない方であるが安定した生息地のようである。又、ここのツメレンゲは苔のように生えた小さなツメレンゲが多い。

1993年10月24日 1♂、3卵採集 1995年 8月14日 4頭観察、1頭採集
1993年10月31日 4頭観察、6卵採集 1997年11月 1日 6頭観察、2♀採集
1994年 8月14日 数卵観察

⑰ 小鹿野町飯田観音山付近

第一発見者は東京都の山田邦雄氏で(1989年:この時はマルバマンネンで発生していたとのこと)その後、筆者も1992年一度調査したが、クロツ、ツメレンゲ共発見できなかった。そして、1998年その場所で、クロツ、ツメレンゲを発見したとの情報を入手し、再調査したところクロツ、ツメレンゲを確認できた。その時、分かったことだが、一度目の調査時、その場所を調査していたが、時間帯が遅かったため、暗くてツメレンゲが見えなかったようである。

1998年10月25日 1♀、3卵採集

⑱ 小鹿野町合角

筆者が秩父のクロツバメを調査し、最初に発見した場所である。調査のヒントは合角ダムの調査時、故、市川和夫先生がクロツを採集しているの、付近に必ず生息地があるはずと思い調査、発見した。(その時の模様は寄せ蛾記(70):1576報告済み)今のところ、秩父地方で最も、個体数、ツメレンゲが多く、安定した生息地である。

1992年10月25日 2頭採集 1995年10月22日 8頭観察、2♀採集
1992年11月 1日 3頭観察 1998年 9月13日 4頭観察
1992年11月 3日 5頭観察、1♂、2♀採集 1998年10月18日 約30頭観察
1993年10月31日 4卵採集

⑲ 小鹿野町強矢

道路の脇に車を止め、良さそうな崖はないかと双眼鏡を覗いていたところ、地元の人にツメレンゲなら、あそこの崖にあるよ、と案内していただき発見したところである。案内していただいた時点ではクロツは発生しておらず、翌年訪れた時に確認できた。

1995年10月29日 6頭観察、1♂、2♀採集

⑳ 小鹿野町富田

ここの生息地も千葉の西原氏に教えていただいたところである。山の斜面の崖で発生しており、筆者が調査した時は時期が遅かったせいか、一卵のみの確認に終わっている。

1997年10月24日 1♂1♀ (西原幸雄 採集)
1998年11月 1日 1卵採集

㉑㉒ 荒川村贄川

ひとつの生息地は埼玉県では非常に珍しく、人家の石組みでの発生であり、ツメレンゲも少なく、当然発生も不定期である。もう一方の発生地は山の斜面の崖であり、前記した場所にほ

ど近く、こちらがホストの発生地と思われる。又、付近にはオノマンネングサが沢山自生しているが、筆者はその場所でクロツを確認してない。

⑳ 1993年11月21日 4卵採集

㉑ 1994年7月16日 8幼採集	1996年5月11日 1♀採集, 1♂, 卵多数観察
1994年7月16日 20幼観察	1998年5月17日 6幼観察
1995年11月5日 6卵採集	1998年5月23日 5幼採集
1995年11月12日 4卵採集	1998年7月12日 13幼採集

㉓ ㉔ 両神村小森

両神村より何とかクロツを発見しようと地図上に記載されている道を全てあつた。その中で小森の脇道を入ったところで、道端に岩が沢山転がっており、その岩より何本かツメレンゲの穂が確認できた。その時点では、石屋さんが、どこかで採掘してきた石だろうと思っていた。しかし、もう少し先に行ってみると、またツメレンゲの付いた岩が転がっており、その奥をよく見ると崖崩れが発生した後があり、その崖崩れの岩であることが判明した。そして岩に付いたツメレンゲの穂をよく見ると卵らしきものが確認出来た。調査した時期が遅かったため、ツメレンゲの穂は完全に枯れていたが、家に持ち帰り加温したところ、クロツの幼虫が3匹出てきた。

翌春の5月当地を訪れたところ崖崩れのあった場所でクロツの成虫を多数確認できた。

もう一カ所はまたも千葉の西原氏が白井差に向かう途中の道路脇で採集したもので、採集したのは飛来個体であり発生地は道路脇にそびえ立つ、大きな通称蔦岩といわれている崖が発生地と思われる。

㉓ 1997年10月13日 1♀ (西原幸雄 採集)

㉔ 1993年11月14日 3幼採集	1995年5月20日 5頭観察
1994年5月14日 10頭観察, 3♂, 1♀採集	

㉕ 大滝村塩沢

大滝村で確認した生息地は、中津川から三国峠付近が多く、大滝周辺での生息地は殆ど無い(過去の記録としては栃本、三峰山周辺があるが確実な生息地は確認されてない) そういう意味でここ塩沢は貴重な産地といえる。但し、分布の連続性としては、位置的に中津川集落と山(秩父槍ヶ岳)挟んだ反対側にあたり、分布のつながりはあると考える。発生地は中津川に面した山の崖で非常に大きな崖でツメレンゲの生えているのは最上部の一部だけである。アプローチは非常に厳しい場所である。

1996年10月6日 1頭観察, 1♂1♀4卵採集

㉖ 大滝村大黒

ここの生息地はマルバマンネンのみの発生で、ツメレンゲはない。付近にはツメレンゲが自生しそうな岩場はあるがアプローチが大変な岩場ばかりで、発見当日も会員の加藤輝年氏に同行いただき調査したが前記したように、大変な岩場ばかりでアプローチ出来ず、諦めた帰り道、加藤氏が林道(山吹林道)で偶然にもクロツバメを採集し、付近に生息地があるのではと調査したところ、道端2~3mの崖の上に、緩やかなテラス状の岩があり、マルバマンネンが自生し、そこで発生していた。一度の調査なので、このマルバマンネンで継続して発生しているか不明である。

1997年10月9日 2♂2♀採集

㉗ 大滝村小倉沢

発生地は道端の石組であり、ツメレンゲも数える程しかない。しかし、付近にはツルマンネンが生えているので、これも食べていると思われる。発生も不定期であり、毎年見られるわけではない。

1994年9月11日 1♀5卵採集	1998年5月17日 3頭観察
1997年10月9日 1♀観察	1998年5月23日 2頭, 2卵観察, 1♀採集

②8 大滝村中津川集落

ここの発生地はツメレンゲが全くなく、人家の石組にミセバヤとツルマンネンがあり、飛来した個体が一時的にこれを食べ、発生していると思われる。当然発生は不定期であり、近くにホストの発生地があると思われる。

1993年7月28日 3頭観察、1♂採集 1997年5月25日 6卵採集（ミセバヤより）
1997年5月10日 1♂採集 1997年7月23日 1♂観察

②9 大滝村中津川林道 標高900m付近

筆者が確認しているのは林道沿いの崖で、ツメレンゲが数株生えているような環境である。ただし、この崖もよく見ると標高差50m位は楽にありそうな、非常に大きな崖で、メインの発生地は更に上方にあると思われる。とてもアプローチできる代物ではない。

1993年9月26日 1頭観察、1♂採集 1997年8月10日 2♂採集

③0 大滝村中津川信濃沢

ここの崖も非常に大きな崖で標高差50m位ありそうなところで、アプローチも非常に厳しく、アプローチ出来ても、その場所は人が殆ど身動き出来ず、手の届く範囲でのツメレンゲからの採卵、若しくは運良く近くに飛んできた成虫が採集出来る程度の非常に厳しいところである。前記したところも同様であるが、この崖は遠くから見ると赤く見える崖である。

1993年10月3日 7卵採集 1996年8月17日 1頭観察、5幼採集

③1 大滝村三国峠付近

人から聞いた話であるが、以前は三国峠からNTNの中継所に行く途中にクロツバメの発生地があったそうであるが現在は全くいない。筆者の保管している三国峠産のクロツバメは2頭あり、1頭は筆者の兄が採集してもので三国峠より秩父側に中津川林道を10程下った道端の崖で採集したもので、付近には全くツメレンゲは無く、飛来個体と思われる。もう1頭は会員でもある、笠原隆二氏が採幼し、飼育した個体で、正確な採集場所は記述できないが、標高1800m以上で現在でもツメレンゲが自生している。いつか発生するのではないかと思ひ5～6年前より毎年1～2回は訪れているが発生してない。もしかすると、この生息地が日本で一番、標高の高い生息地になるかもしれない

1984年9月23日 （笠原隆二氏採幼、飼育） 1頭筆者標本保管
1991年9月5日 1♂小森寿採集（筆者実兄）、筆者標本保管

以上、7年間、秩父のクロツバメシジミを調査してきた。ここで簡単に県外との分布の連続性について、少し触れて見ると現段階では秩父地方の個体群は小鹿野町、吉田町、皆野町、秩父市、長瀬町の個体群と大滝村、両神村、荒川村の個体群の二つに分けられると思う。大滝村を中心とした個体群については隣県では長野県川上村梓山に生息地があり距離的にも、ほぼ連続的につながっていると思われる。又、吉田町の産地も過去に土坂峠付近に生息地があったとの情報もあり、もし、それが本当であれば群馬県側の生息地と連続しているのかもしれない。

又、大滝村を中心とした個体群と吉田町を中心とした個体群については両神山で寸断されているようで、両神村日向大谷の薄川流域、小鹿野町河原沢地区の赤平川流域から生息地が確認できてない。

よって今後の調査予定としては、これらの空白地帯と大滝村の県界尾根を含む、高標高の産地を中心に調査したいと考えている。

最後に貴重な情報を提供していただいた千葉県西原幸雄氏、東京都里中正紀氏、又、本当に貴重な三国峠産の標本を譲ってくださった会員の笠原隆二氏に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

秩父の蝶，諸々

石塚 正彦

● 外秩父のメスアカミドリシジミ

筆者は秩父市定峰の定峰川上流の沢筋、標高700m付近で本種を採集しているので報告する。

当日は殆ど不可能、そして時期的にも少し早いかもしれないがと思いつつも白石峠へウラクロミドリを狙いに行った帰り道のことである。ウラクロでもいればと当地を訪れ、一生懸命ウラクロを狙って長竿を振っていると夕方4時頃だというのに、前方10m、高さ1.5mの低木の上をゼフィルスらしきものが飛んでいるではないか、ネットしてびっくりメスアカの雄であった。付近は植林された杉が多く、よくもこんな環境にいるものだと驚いた。

データ：秩父市定峰定峰川上流 alt. 700m付近 1998年6月20日 1♂筆者採集保管

● 1本のハルニレでもカラスシジミ

寄せ蛾記(91)の皆野町のウラクロシジミでも少し触れたが、秩父郡皆野町金沢にあるハルニレの大木(樹高13m)で、ハルニレを叩いたところ本種が飛び出し、運良く近くに再び止まった為(去年は、そのまま上方へ飛び去ってしまった)採集することができた。以前の報告でも触れたように本当にハルニレが一本でもあれば本種がいる可能性はあると思う。

データ：秩父郡皆野町金沢 1999年6月6日 1♀筆者採集保管

● ウラミスジシジミの採卵

新たに二カ所でウラミスジシジミの採卵に成功したので報告する。

何れも、やはり、コナラで樹高10m位の木である。二カ所とも、ここ2,3年、毎年調査していた木であるが今回が初めてである。中津川林道で採卵したものは既に寄生されていたが、仏石山のものは翌春2頭が羽化した。

データ：秩父郡大滝村中津川仏石山トンネル付近 1999年1月3日 4卵(コナラ)
：秩父郡大滝村中津川林道ふれあいの森先 1km付近 1999年3月7日 3卵(コナラ)

● アイノミドリシジミの採卵で思うこと

1999年の冬、中津川林道の集落から王冠にかけて、電柱の差し替え工事があり、その工事のため多数(大なり小なり20~25本位)のミズナラの木が伐採され、その伐採された枝より多数の卵を獲た。

今回、合計33卵という未だかつてない、アイノミドリシジミの卵が獲られたにも拘わらず、ジョウザンミドリシジミ、ウラミスジシジミの卵が1卵も獲られなかったのは、以下のことを想像させないだろうか？

・ジョウザンミドリシジミ……あれだけのミズナラを調査したのになぜ、ジョウザンの卵が獲られなかったのでしょうか？埼玉に本種はいないのであるか、それとも、次種のウラミスジ同様にコナラ食いののだろうか？しかし、筆者もウラミスジの調査でコナラは沢山調べているが、確認できてない。やはり埼玉にはいないのでしょうか？それとも、もしかして、里山にいるのだろうか？

・ウラミスジシジミ……前記したように沢山のミズナラを調査したのにウラミスジの卵が獲られなかったのは、埼玉のウラミスジはコナラしか食べないのだろうか？もし、そうだとしたら、それは、なぜなんだろうか？

● 意外と簡単ウスイロオナガの幼虫採集

1998年の春、志賀坂峠~八丁隧道間でウクロの幼虫を探していた時、ちょうどミズナラも蕾が開いて葉っぱになった所だったので、何かゼフィルスの幼虫でもないかと、近くにあったミズナラの伐採木のひこ生えを覗いたところ、ミズナラの葉の中央にウスイロの幼虫が乗っていた。近くの葉を調べたところ、他にも乗っているではないか……

合計5幼採幼出来た。この場所は、昨年ウスイロオナガの成虫を採集していた所である。(寄せ蛾記(90):2669報告)

これに味を占め、そう言えば会員の加藤輝年氏が中津川集落でウスイロオナガの成虫を採集したことがあると以前、話していたのを思い出し、もしかしたらと、調査したところ、同様にミズナラの木の日当たりの悪い下枝より採幼できた。意外と簡単ウスイロオナガの採幼。

しかし、簡単だったのは、ここまでで、その後、東秩父の白石峠や秩父市浦山の有間山麓で調査したが全く採れなかった。

データ：秩父郡小鹿野町河原沢志賀坂～八丁隧道間 alt. 900m 付近 1998年5月5日 5幼(ミズナラ)

データ：秩父郡大滝村中津川ふれあいの森 1998年5月5日 1幼(ミズナラ)

”

1999年5月3日 3幼(ミズナラ)

●意外と簡単フジミドリの雌採集

フジミドリの成虫採集は至難の業と思っていたが、1999年の夏、大滝村プロジェクトの採集会で小倉沢の大黒へ行ったとき(7月25日)蛾をやっている会員のひとりがフジミドリノ雌を採集した。その会員曰く、去年もここでフジミドリノ雌を採ったと言っていた。筆者ら(筆者+加藤輝年氏)蝶をやっているものにとって、今日は、めぼしいものが何も採れてないので、非常に悔しい思いをしていた。しかし、これがバネとなり。この後、中津川林道に転戦し、加藤氏と筆者でブナ林を目指した。ブナ林に入り、いきなり加藤氏がフジミドリの雌を採集し、筆者も燃えた。

しかし、ブナを叩けど、叩けど筆者の前にフジミドリは舞い降りなかった。結局当日は、筆者は採れず終い、加藤氏は、採集こそ出来なかったが、その後1頭叩き出した。その後、筆者は悔しさが収まらず、雁坂トンネル手前の東大演習林の林道へと足を運んだ。ここでは筆者に女神が微笑んでくれ、時間にして40分位の間に2頭のフジミドリの雌を叩き出した。運が良ければ意外と簡単。(自宅に持ち帰り強制採卵したが全く産まず)

データ：秩父郡大滝村豆焼橋付近(橋を渡り切ったところの東大演習林の林道) 1999年7月31日 2♀筆者採集保管

●意外と簡単ミヤマチャバネの幼虫採集

小倉沢に採集に行った時、何も収穫できなかったのも、以前ギンイチモンジの幼虫を採ったことがあったので(この時は家にススキがなかったので結局だめにしてしまった)今は家にススキもあるし、飼育でもしようと、いくつか採って帰った。家に帰り幼虫の入っているススキの筒を覗いてみると、あれ、ギンイチモンジの幼虫ではないぞ、調べてみると、何とミヤマチャバネの幼虫であった。筆者はミヤマチャバネとホソバセセリは、まだ秩父で採集したことがなく、又、非常に気にかけている蝶である。又、積極的に探しているにも拘わらず見つからないので諦めかけていたところだった。それが、いとも簡単に幼虫が採集できたので、これなら今の時期、他でも見つかるかもしれないと、小鹿野町の赤平川流域を調査した。まずは、一番奥の坂本に行き、そこから下ってくることにした。坂本で河原の近くや、国道脇を調査すると、採れるは採れるは、一時間位の間に6幼採集できた。その後、下流の尾の内沢付近で1幼、納宮で5幼、半平で1幼、採集した。ただ、その後、小鹿野町まで調査しながら下ってきたが追加できなかったのも、秩父では山間部の蝶なのだろうか。

ギンイチモンジセセリ：秩父郡大滝村小倉沢 1999年9月23日 1幼

ミヤマチャバネセセリ：秩父郡大滝村小倉沢 1999年9月23日 4幼

”：秩父郡小鹿野町河原沢坂本 1999年10月3日 6幼

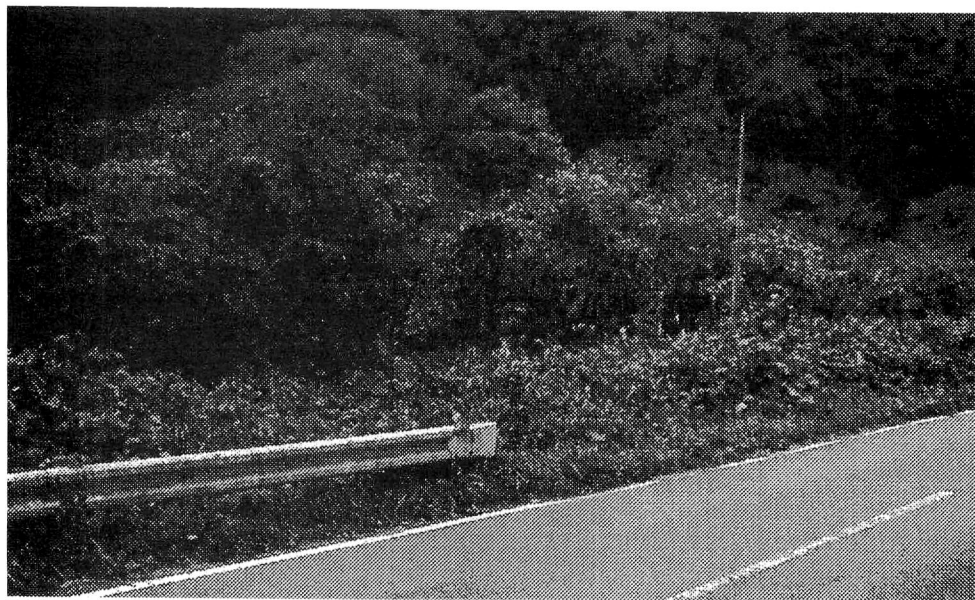
”：秩父郡小鹿野町河原沢林 1999年10月3日 1幼

”：秩父郡小鹿野町河原沢納宮 1999年10月3日 4幼

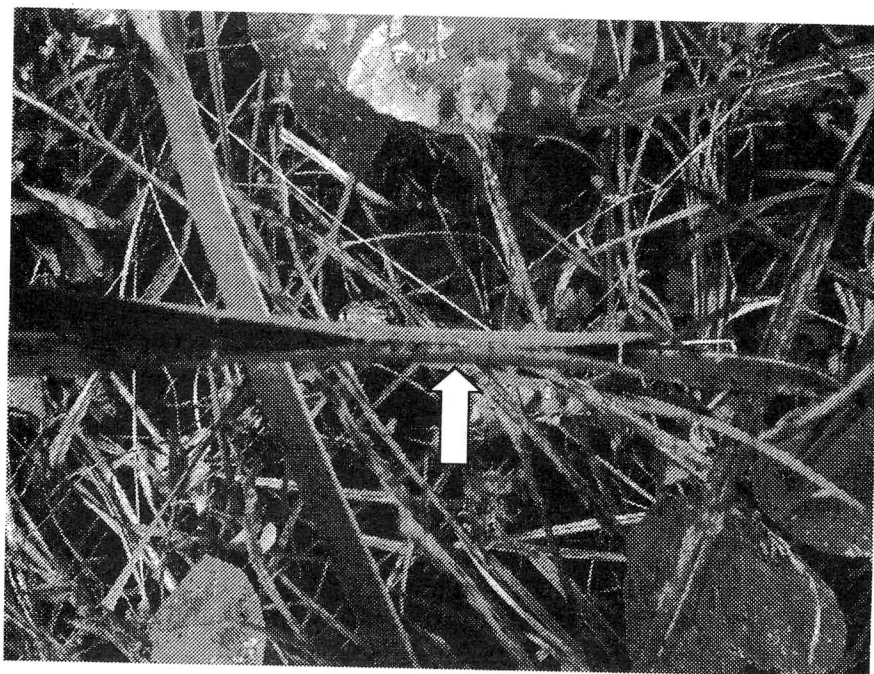
”：秩父郡小鹿野町三山半平 1999年10月3日 1幼

”：秩父郡小鹿野町藤倉強矢 1999年10月31日 2幼

”：秩父郡吉田町鍛冶山 1999年11月7日 4幼



秩父郡小鹿野町藤倉強矢の採幼地。1999.10.31撮影
他の場所も、このような道端のススキより採幼している。



矢印のところにミヤマチャバネの幼虫が入っている。
小鹿野町藤倉強矢1999年10月31日撮影



矢印のところにミヤマチャバネの幼虫が入っている。
小鹿野町藤倉強矢1999年10月31日撮影

● 南の蝶を採集

1999年の夏は非常に暑く、又、秋になっても高温の日が続いたため、今年は、ツマグロヒョウモンやクロコノマが採れるのではないかと期待していた。

その1……ツマグロヒョウモンの巻

10月3日今日はツマグロ日和と思い、美の山へと足を運んだ。山頂の昔アサマジミが居たところに着くと、何と先客が居た。近くによると、それは本会員の笠原隆二氏であった。まさかと思い、「ツマグロヒョウモン居ますか？」と質問すると、何と3頭見て2頭採ったのこと。悔しい、もう1時間早くれば良かった。その後笠原氏が退散し、待つこと30分、下の方よりオレンジ色のヒョウモンが一直線に飛んできた。今の時期、こんな色のヒョウモンは居ないので直ぐツマグロヒョウモンと分かった。難なくネットイン、筆者秩父での初記録。

その後、他の山にも居るのではと、登谷山に転戦したが惨敗。後から聞いた話だが、筆者が去った後、笠原氏は再度、美の山を訪れ、何と雌を採集したとのこと。またまた悔しい。

データ：秩父市黒谷蓑山山頂 1999年10月2日 1♂筆者採集保管

その2……クロコノマの巻

10月22日(木)の夜、今週末は柿木目指してクロコノマでも探そうかと考えていた。偶然にも、その時、蝶友の久保栄二氏から電話があった。その内容は何と吉田町の町田氏が粟を収穫中にクロコノマを採ったというのである。又、嬉しいことにこのクロコノマを預かって欲しいというのである。生態図鑑を調べると粟、トウモロコシを食べると書いてある。又、頂いたクロコノマは生け捕りにされビニール袋に入っており、よく見ると羽化したてのようで、まだ体液が出ていた。よし、これならまだ居るはずと、10月24日(日)町田氏の粟畑と向かった。現地に着くと粟は3分の1程収穫されており、その残った粟に食痕でもないかを見ていたら、あったあった、これ食痕だよと思った瞬間、その場所より、「ふわふわ～」とクロコノマが飛び出したのである。その後、吉田町の粟畑を調査したが追加できなかった。しかし来年の9月頃でも粟畑を探せば幼虫が採集できるかもしれないと思い、今秋は終了した。

ところが、後で分かったことだが、恥ずかしいことに筆者が粟と思っていた植物、粟と思っていた畑は、何と赤トウモロコシの畑で、実際に町田氏が採集した粟畑からは椎茸のビニールハウスと桑畑をはさみ10m離れていたところだった。しかし、このクロコノマ、もしかすると、この赤トウモロコシも食べていたのかもしれない。

最後に貴重な成虫を譲ってくださった。町田一郎氏、又、貴重な情報を提供していただいた、久保英二氏に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

データ：秩父郡吉田町桜井(粟畑) 1999年10月22日 1♂ 町田一郎採集筆者保管
" (赤トウモロコシ畑) 1999年10月24日 1♂筆者採集保管



クロコノマを採集した赤トウモロコシ畑。 秩父郡吉田町桜井1999年10月24日撮影



採集直後のクロコノマ。 秩父郡吉田町桜井1999年10月24日撮影

(いしづか まさひこ 〒368-0035 秩父市上町1-1-17)

早春の神居古潭をゆく

中川 利勝

◎ 札幌の日々 1999年4月28日(水)曇

4月の札幌は、春の太陽が日を隠すと途端に冬に逆戻りする。私が仕事で札幌を訪れたのは、1999年4月下旬のことであった。ゴールデン・ウィーク直前の4月28日の札幌は、前日とは打って変わってどんよりとした曇り空であった。春だというのに吹く風は冷たく、容赦なく体温を奪う。札幌入りしてからの2日間は、比較的好天に恵まれていたが、滞在3日目の28日にして天候が悪化した。滞在中に得た情報によると、今年は旭川でも例年になく雪が多く残っているとのことであった。「旭川」と言ったのは、「神居古潭」を想定してのことである。4月の神居古潭、それは言わずと知れたエゾヒメギフチョウを考えてのことである。

忙中閑ありとはよく言ったもので、私は札幌滞在中、時間に余裕があるときには、北海道大学へ立ち寄ることがある。構内にある書店を覗くこともあれば、昼食時間をクラーク会館の食堂で過ごすこともある。東の間とはいえ、何よりも学生気分に戻れるのが嬉しい。北大農場のポプラ並木まで足を運べば、決まって出迎えてくれたのは、モンキチョウであったように記憶している。

ゴールデン・ウィーク初日は「みどりの日」。当然ながら休日であったので、予定通り神居古潭へ向かうことにした。神居古潭はアイヌ語で『神の村』。蝶屋の間では、「往年のエゾヒメギフチョウの産地」としてよく知られている。雪の多い今年に限って言えば、エゾヒメギフチョウの発生は遅れが予想され、時期的には少し早いような気もしたが、札幌まで来ていながら寄らずに帰る手はないであろう。また、すぐに帰京せねばならぬほど急ぐ旅でもない。ただ、寒いくらいの曇り空を前にすると、翌日の天気には一抹の不安がないでもなかった。

◎ 深川のこと

深川へは28日のうちに移動した。夕刻、寒いくらいの曇天の中、函館本線の列車に乗り込み、札幌を後にしたのであるが、岩見沢、美唄を通過する頃には、今までの天気が嘘のように青空が現れてきた。列車は広大な農業地帯を走り抜けて行き、夕日が眩しく感じられる頃、宿泊地深川に到着した。

「深川」は、私の母の生誕の地でもあった。迂闊にも、このことは私が北海道から戻った後、実家の母との雑談の中で知った次第である。昔、遠い記憶の中で、母からそれらしいことを聞かされていたことを思い出した。私の母は、深川で生まれた後、僅かの間だけ深川の町で過ごしたようだ。当然幼い本人にも記憶はないであろう。それでも、深川の町の様子など気になるらしく、めずらしく私に尋ねたりした。

深川駅周辺は、札幌と違い高いビルがない。青空に囲まれた開放的な町並みであるが、やはり「地方の町」といったイメージは拭いきれない。それでも、普段大都会「東京」で仕事をしている私にとっては、「人」が少ないのは何よりで、できれば「人」の数より、「蝶」の数が多いにこしたことはないと思っている。

◎ 歩行虫の一種 4月29日(木)晴一時曇

29日朝の天気は快晴。若干気温が低めなのが気になるが、早朝、バスで移動して「神居古潭」へ入る。車窓から見える田園風景が終わりを告げると、いよいよ神居古潭の集落である。バスを「春志内」で下車。国道12号線に沿うように、眼下に石狩川が流れている。この日の石狩川は、沢山の雪解け水が流れ込んでくるためか、豊富な水量の水が茶色の濁流となって荒々しく流れている。

石狩川に沿った国道脇の土手では、この時期、フクジュソウが最盛期である。パリッとした樹脂を思わせる黄色の花は、春の日ざしを浴びて眩しいくらいである。カメラを手に周辺を歩いていると、足音に驚いたのか、1頭の黒い甲虫が落ち葉の間から這い出してきた。腰を屈めて覗き込んでみると、エゾマイマイカブリであった。関東で見られるヒメマイマイカブリと違って、胸

部瑠璃色の光沢が美しい。北海道ではそれほど珍しくはないようではあるが、私にとっては、東京への良い土産となった。この石狩川沿いの土手は、歩行中の良い住処となっているようである。

余談になるが、このエゾマイマイカブリを帰宅後、しばらくプラスチックケースで飼育することにした。エサとなるカタツムリ（マイマイ）が見つからず、魚肉ソーセージやミミズを与えて様子を見ていたが、2ヶ月ほどで死んでしまった。結果的には私に好物のカタツムリ（マイマイ）を与えてもらえなかったわけで、「マイマイカブレず」に終わった次第。

紅の蛾

札幌と旭川とを結ぶ国道12号線は、交通量が極めて多い。道路横断もままならないほどである。付近を散策しながら旭川方面へ少し歩くと、やがて「観魚橋」が見えてくる。この橋の手前を右手に入った未舗装の林道は、神居第一線川に沿って続いているが、採集地としてはかなり期待が持てそうな感じである。わたしが訪れた4月29日は、雑木林の林床にはまだ一面に白い雪の絨毯が敷き詰められたままで、蝶をはじめとした昆虫類の活動には、まだ条件が整っていない。時折、越冬から目覚めたクジャクチョウやコヒオドシが目につく程度でエゾヒメギフチョウは現れる気配すらない。雪解け後の日だまりには、カタクリやフクジュソウが咲き出しており、ピンクや黄色の花の色が際立って鮮やかである。緩やかな登り道を進んで行くと、背後あるいは側面から、不意に紅色の小さな昆虫が現れる。一瞬、「アカマダラの春型か！」と勘違いしてしまうが、この時期、アカマダラはまだ現れない。森林を不器用に飛んでいるのは、春最も早く姿を見せる、紅色の蛾「カバシャク」である。北海道のカバシャクは本州とは別亜種 *bella* Inoue として区別されている。春の日ざしを浴びて、雪上低く飛ぶカバシャクを一度見た人は、そのコントラストの美しさに立ち尽くすことであろう。雪の「白」とカバシャクの「紅」。際立ってこの世のものとも思えない。この取り合わせは、本州ではあまりないかもしれない。沢沿いの林道をカバシャクが飛んでくるのであるが、「どこからともなく」という表現が相応しいほど、突然視界に飛び込んでくることが多い。時には林道に沿って、また時には、沢もろとも林道を横切って飛ぶ。

この蛾は、食樹としてカバノキ属のシラカンバが知られているが、ここ神居古潭の生息地では、シラカンバを配した落葉広葉樹林の中を飛んでいる。昼行性の蛾とは言え、飛翔の様子を見ると、必ずしも巧みに空間を移動しているとは思えない。とは言いながらも、この蛾は非常に人の気配に敏感であり、意識して飛翔しているのか、至近距離にはなかなか近づかない。また、一度振り逃がそうものなら、高く舞い上がってしまい、手のほどこしようがなくなることも多い。驚かすと高く舞い上がるアサギマダラのようなところがあるが、アサギマダラと違いかなり小さいため、すぐに見失ってしまう。雲が出て日が陰ると、カバシャクは高山蛾のように途端に姿を隠す習性がある。このことは、北海道の場合、全般的に蝶でも言えることであるが、日が陰ると気温が下がるためであろう。特に春先は晴天と曇天では、気温の差も著しい。早春の一時期のみ出現することも手伝って、カバシャクの採集はそう簡単ではない。

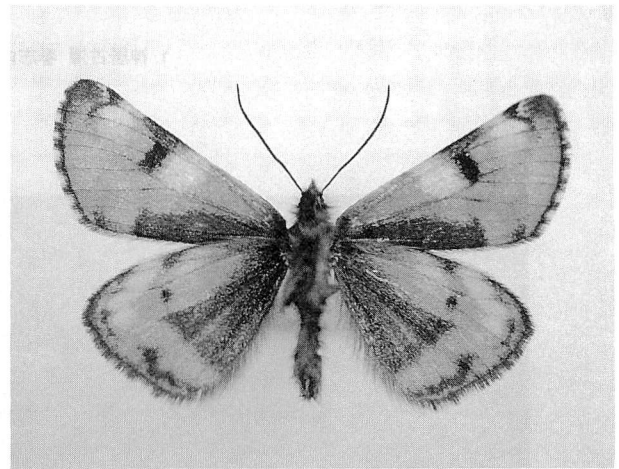
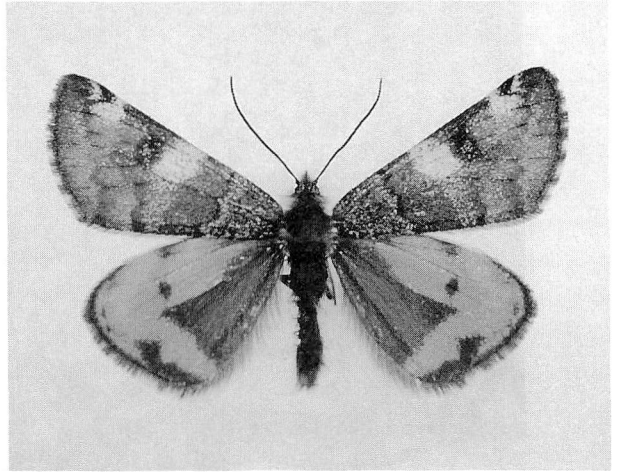
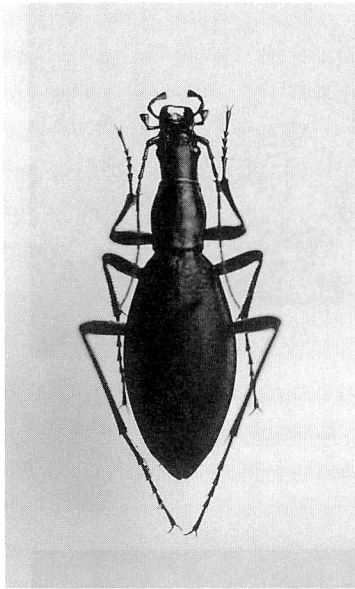
この日は期待していたエゾヒメギフチョウが見られなかったこともあり、午後3時前には深川行きのバスに乗り込み、神居古潭を後にした。深川からは高速バスに乗り継ぎ、札幌へ出た。本来なら、帰路は旭川空港を利用した方が、距離的に近かったのであるが、千歳空港からの航空券を手配していたため、結果として遠回りすることになった。いつもの事ながら、航空機を利用した帰路は、時間に追われ、ドタバタしてせわしない。それでも、いつも立ち寄る千歳空港内のそば処『八天庵』で空腹を満たすべく、美味しい蕎麦を賞味することは忘れない。次回からは、『是非、ゆとりを持った採集にしよう』と思う頻りであるが、いまだに実現していない。



1. 神居古潭 春志内にて



2. カバシャク舞う神居第一線川林道



3 エゾマイマイカブリ (左)

4 カバシャク *Brephos panthenias bella* Inoue ♂表面 (右上)

同

裏面 (右下)

『埼玉県の半翅類』への訂正

林 正美

『埼玉県昆虫誌, 別巻 (1999)』以降, 下記のような間違いが見出されたのでここに訂正する。多くは私の確認不足や不注意に起因するもので, 深くお詫びするとともに, ご指摘くださった国立科学博物館の友国雅章博士, 北海道教育大学札幌校の安永智秀博士に心からお礼申し上げる。なお, 訂正は『別巻』の「2. 埼玉県産昆虫リスト」(pp. 86-104)に沿って列挙する。

HETEROPTERA 異翅目

- p. 86 ミズギワカメムシ科
Saldula pallipes (LINNAEUS, 1794) → *Saldula pallipes* (FABRICIUS, 1794)
- p. 87 ミズムシ科チビミズムシ亜科
Micronecta sahlbergi → *Micronecta sahlbergii*
- p. 88 メクラカメムシ科ツヤメクラガメ亜科
Deraeocoris pallidus HORVÁTH, 1905 → *Deraeocoris kerzhneri* JOSIFOV, 1983
メクラカメムシ科メクラカメムシ亜科
Creontiades pallidifer (WALKER, 1873) → *Creontiades coloripés* HSIAO, 1963
Creontiades tricolor → *Orientalimiris tricolor*
Lygus saundersi REUTER, 1896 → *Cyphodemidea saundersi* (REUTER, 1896)
Orthops sachalinus (CARVALHO, 1959) → *Orthops udonis* (MATSUMURA, 1917)
- p. 89 *Trigonotylus caelestialium* → *Trigonotylus caelestialium*
- p. 90 グンバイムシ科ウチワグンバイ亜科
Cantacader japonicus → *Cantacader japonicus*
グンバイムシ科グンバイムシ亜科
Physatocheira → *Physatocheila*
Uhlerites latius TAKEYA, 1931 → *Uhlerites latiorus* TAKEYA, 1931
サシガメ科トビイロサシガメ亜科
Pygolampis cognata HORVÁTH, 1899 → *Pygolampis bidentata* (GOEZE, 1778)
- p. 92 ナガカメムシ科ヒラタナガカメムシ亜科
Cymus aurescence DISTANT, 1883 → *Cymus obliquus* HORVÁTH, 1888
Horridipamera ferruginosa (STÅL, 1874)
→ *Horridipamera inconspicua* DALLAS, 1852
- p. 93 ヘリカメムシ科ヘリカメムシ亜科
Cletus rusticus STÅL, 1859 → *Cletus schmidti* KIRITSHENKO, 1916
ツチカメムシ科ツチカメムシ亜科
Aethus nigrinus → *Microporus nigrinus*
Geotomus pygmaeus → *Fromundus pygmaeus*
- p. 94 カメムシ科カメムシ亜科
Brachynema ishiharai LINNAVUORI, 1961
→ *Cherazonotum ishiharai* (LINNAVUORI, 1961)
Dolycoris baccalum → *Dolycoris baccarum*
Eysarcoris lewisi (SCOTT, 1833) → *Eysarcoris lewisi* (DISTANT, 1833)

埼玉県内のセモンササキリモドキ属の 記録の訂正と追加

柴田 直之

寄せ蛾記79号(2119)で和田一郎(1996)の記録したムサシセモンササキリモドキが誤同定であることが分かったので報告する。

セモンササキリモドキ (ムサシツユムシモドキ) *Nipponomeconema musashiense*
→ ムツセモンササキリモドキ (ムツツユムシモドキ) *Nipponomeconema mutsuense*

この個体は中津川林道において初めて採集したセモンササキリモドキであるが、和田氏の家に眠っていたものである。

当時、ムツセモンササキリモドキは東北地方特産と考えられていたために何の疑いもなく *N. musashiense* (以下ムサシセモンササキリモドキと呼ぶ) と同定されていたが、最近になって、西日本でもムツセモンササキリモドキが採れること、さらには一部でムサシセモンササキリモドキと混生していることも確認された。これにより、和田氏宅に眠っているもの(県外も含め)ももしかしたら、と思っておじゃまして再確認させていただいた。

県内ではこの記録の他に大滝村二瀬、両神村白井差の記録があるが二瀬の記録はムサシセモンササキリモドキの原記載(パラタイプ)、白井差の個体は採集者の富永修氏から標本を借りているがムサシセモンササキリモドキである。

また、これらの既知の記録の他に小堀文彦氏から頂いたものがあるのでここで追加記録として報告する。

ムサシセモンササキリモドキ 1♂, 大滝村中津川林道(850m) 小堀文彦採集, 筆者保管

この記録は上記のムツセモンササキリモドキの記録地と隣接しており、おそらく混生していると考えられる。

なお、関東のムツセモンササキリモドキの記録は他に栃木県奥日光(未発表)があげられる。もちろん県内でも初記録となる。

最後に、記録の訂正に快く了解して下さった和田一郎氏貴重な標本を譲って下さった小堀文彦氏に深く感謝する。

(しばた なおゆき 〒350-1147 川越市諏訪町18-8)

『埼玉県のトンボ目への追加』の訂正

碓井 徹・鈴木 幸・斉藤 洋一

『埼玉県のトンボ目への追加』(埼玉県昆虫誌 別巻 p.2) でおこなった文献の追加の内、以下の部分を訂正する。この誤りをご指摘くださった日本蜻蛉学会の白石浩次郎氏にお礼申し上げる。

加納一信・喜多英人(1999) 羽化直後のコサナエ終齢幼虫の呼吸。月刊むし, (336): 43-44.

→ 羽化直前

(うすい とおる 〒362-0046 上尾市老丁目454-3 ほか)

昆虫誌プラス (1)

埼玉昆虫談話会

はじめに

当会が1997年から1998年にかけて刊行した『埼玉県昆虫誌』全3巻4分冊では、埼玉県産昆虫9,180種をリストアップしたが、その後、それらに対する訂正や追加を集大成して、1999年には埼玉県産昆虫9,360種をリストした『埼玉県昆虫誌』別巻を刊行した。

別巻刊行後も、会員らによる埼玉県の昆虫相調査は継続しておこなわれ、すでに、本誌前号でも埼玉県初記録の種がいくつも登場している。そこで、本誌『寄せ蛾記』では、埼玉県初記録種を含む報文を中心に、学名・和名の変更、種の削除などをまとめて紹介する本報文“昆虫誌プラス”をご覧のようなかたちで毎号巻末に掲載し、埼玉県の昆虫相に関する最新の情報をまとめて提供する企画をスタートすることにした。

誤解のないようお断りしておくが、本報文は、あくまで発表された文献の中から埼玉県初記録の種や学名の訂正などをまとめて紹介し直すことが主たる目的であり、埼玉県初記録や昆虫誌への訂正記事自体を初掲載するものではない。『埼玉県昆虫誌』の各執筆者による訂正や追加、埼玉県初記録のデータをお持ちの方は、これまで通り、独立した報文としてそれらを本誌や他誌に投稿されたい。本報文は、あくまで文献引用によるまとめをおこなうものである。

なお、本報文は、しばらくは『寄せ蛾記』の編集責任者である碓井徹がまとめを担当するが、担当がしっかりと目を通せる文献は、一応、以下の通りである。

寄せ蛾記	トンボ公園だより (寄居町にトンボ公園を作る会)
埼玉動物研通信 (埼玉県動物研究会)	埼玉生物 (埼玉県高等学校生物研究会)
房総の昆虫 (千葉県昆虫談話会)	Gracile (関西トンボ談話会)
TOMBO (日本トンボ学会)	AESCHNA (トンボ研究会)
Rostria (日本半翅類学会)	Cicada (日本セミの会)
蝶と蛾・やどりが (日本鱗翅学会)	昆虫と自然・月刊むし・インセクタリウム

上記の文献以外に、埼玉県初記録種を含む報文を発表された方、あるいはそのような文献をご存じの方は、ぜひ碓井までご一報いただきたい(できれば、その別刷やコピーと一緒にいただくと嬉しいです)。

【埼玉県初記録種】

ORTHOPTERA 直翅目

- ◆ 柴田 直之(1999) 寄せ蛾記 (93): 2802.

Tettigoniidae キリギリス科

Nipponomeconema mutsuense Yamasaki, 1983

ムツセモンササキリモドキ (ムツツユムシモドキ)

HOMOPTERA 同翅目

- ◆ 林・新島(1999) 寄せ蛾記 (92): 2769.

Cicadellidae ヨコバイ科

Nirvaninae ホソサジヨコバイ亜科

Sophonia orientalis Matsumura クロスジホソサジヨコバイ

NEUROPTERA アミメカゲロウ目

- ◆ 南部 敏明 (1999) 埼玉動物研通信 (32): 19.

Hemerobiidae ヒメカゲロウ科

Hemerobius humulinus Linnaeus, 1756 ミヤマヒメカゲロウ

Hemerobius kobayashii Nakahara, 1956 ムモンヒメカゲロウ

Chrysopidae クサカゲロウ科

Chrysoperla nipponesis (Okamoto, 1914) ヤマトクサカゲロウ

COLEOPTERA 鞘翅目

- ◆ 鈴木 英明 (1999) 家屋昆虫 21(1): 35-38.

Micromalthidae チビナガヒラタムシ科 (埼玉県初記録の科)

Micromalthus debilis LeConte, 1878 チビナガヒラタムシ

※ 本誌 p. 2779を参照のこと。なお、本種の学名は、環境庁 (1995) 刊行の日本産野生生物目録 無脊椎動物編 II によった。

- ◆ 難倉 正人 (1999) 寄せ蛾記 (92): 2733-2752.

Carabidae オサムシ科

Leistus subaeneus Bates アオキノカワゴミムシ

Pterostichus brunneipennis Straneo ハネアカナガゴミムシ

Harpalus fuliginosus (Duftschmidt) ミヤマゴモクムシ

Staphylinidae ハネカクシ科

Siagonium nobile Sharp セミゾヒラタハネカクシ

Eusphaleum shibatai Watanabe

Zyras cylindricornis Dvorak ヒゲブトアリノスハネカクシ

Scarabaeidae コガネムシ科

Serica trichofemorata Nomura モモケビロードコガネ

Sericania hidana Nijima et Kinoshita ヒダチャイロコガネ

Elateridae コメツキムシ科

Ampedus houwau Kishii ホウオウホソアカコメツキ

Ampedus aureovestitus Kishii ケブカコクロコメツキ

Ampedus pauxillus (Lewis) チビクロコメツキ

Ectinus longicollis (Lewis) ムネナガカバイロコメツキ

Lycidae ベニボタル科

Dictyoptera aurora (Herbst) ミヤマヒシベニボタル

Cantharidae ジョウカイボン科

Podabrus kiiensis hakonensis Takahashi

キイクビボンジョウカイ(関東南部亜種)

Podabrus yoshidai fujisanus Nakane et Makino

ヨシダクビボンジョウカイ(関東南部亜種)

Podabrus kintokisanus Takahashi キントクビボンジョウカイ*Podabrus hyogoensis* Nakane et Makino ヒョウゴクビボンジョウカイ*Podabrus shirakomanus* Takahashi et Okushima シラコマクビボンジョウカイ

Rhizophagidae ネスイムシ科

Rhizophagoides kojimai Nakane et Hisamatsu ニセケブカネスイ

Nitidulidae ケシキスイムシ科

Cychramus plagiatus Reitter モンキイロセマルケシキスイ

Byturidae キスイモドキ科

Byturus tomentosus (De Geer) (= *B. oakanus*) エゾキスイモドキ

Erotylidae オオキノコムシ科

Microsternus perforatus (Lewis) ベニモンムネビロオオキノコ

Prostomidae デバヒラタムシ科

Prostomis mordax Reitter ヒメデバヒラタムシ

Pyrochroidae アカハネムシ科

Dendroides nakabusana Kôno ナカブサツチビロードムシ

Curculionidae ゾウムシ科

Caenosilapillus babai Chûjô et Morimoto シラホシニセイネゾウムシ*Magdalis galloisi* Kôno クロツツクイゾウムシ*Hylobitelus montanus* Kôno ミヤマアナアキゾウムシ*Rhadinomerus subovatus* Morimoto マルミナガクチカクシゾウムシ*Acallinus tuberculatus* Morimoto コブマルクチカクシゾウムシ

◆ 難倉 正人 (1999) 寄せ蛾記 (92): 2753.

Elateridae コメツキムシ科

Acteniceromorphus kurofunei (Miwa) ミヤマフトヒラタコメツキ

◆ 難倉 正人 (1999) 寄せ蛾記 (92): 2754.

Melandryidae ナガクチキムシ科

Euryzilora lividipennis Lewis ムナクボナガクチキ

◆ 豊田 浩二 (1999) 寄せ蛾記 (92): 2767-2768.

Carabidae オサムシ科

Pterostichus brittoni Habu ブリットンヒメナガゴミムシ◆ Takahashi, K. (1999) *Elytra* 27(1): 70-75.

Cantharidae ジョウカイボン科

Podabrus (Asiopodabrus) tsuchikawai Takahashi ツチカワクビボンジョウカイ

※ 大滝村矢竹沢産 (佐々木和男 採集) の1♂が、別模式標本となり記載された。
分布域は、本州中部のブナ帯。

- ◆ 栗原 明雄 (1999) 月刊むし (343): 42-43.

Cerambycidae カミキリムシ科

Cieomenes takiguchii Ohbayashi タキグチモモフトホソカミキリ

HYMENOPTERA 膜翅目

- ◆ 南部 敏明 (1999) 埼玉動物研通信 (31): 19-20.

Pteromalidae コガネコバチ科

Eurydinota leptomera Foerster

Miscogasteriella sulcata (Kamiyo)

Psilocera ? obsura (Walker)

※上記の報文には、埼玉県初記録として、本科に *Trichomalopsis apanteloctena* (CRAWFORD) もリストされているが、この種は、すでに同報告者によって、別巻にて県内から記録されているので、埼玉県初記録ではない。

Cynipidae タマバチ科

Andricus mukaigawae (Mukaigawa) ナラメイガタマバチ

Bethylidae アリガタバチ科

Epyris sp. オトメアリガタバチ

Holepyris sp. ベンテンアリガタバチ

Crabronidae ギングチバチ科

Rhopalum watanabei Tsuneki ワタナベギングチ

Halictidae コハナバチ科

Lasioglossum longifacies Sakagami et Tadauchi オオズナガチビコハナバチ

Melittidae ケアシハナバチ科 (埼玉県初記録の科)

Dasyroda japonica Cockerell シロスジフデアシハナバチ

- ◆ 南部 敏明 (1999) 埼玉動物研通信 (32): 11-14.

Tenthredinidae ハバチ科

Macrophya rohweri Forsius ローベルクロハバチ

Pachyprotasis okutanii Inomata ヨモギシマハバチ (オクタニキモンハバチ)

Pachyprotasis zukaensis Inomata タカラヅカキモンハバチ

Braconidae コマユバチ科

Atanycolus initiator (Fabricius) キタカミキリコマユバチ

Myosoma chinensis (Szepligeti) ズイムシクロバラコマユバチ

Aleiodes dispar (Haliday)

Aleiodes microculatus (Watanabe)
Aleiodes sapporensis (Watanabe)
Hylcalosia maetoi (von Achterberg) オオアカズコマユバチ
Ascogaster longicornis Huddleston ヒゲナガコウラコマユバチ
Ascogaster semenovi Telenga ヨネダコウラコマユバチ
Choeras takeuchii (Watanabe)
Aspigonus aino (Watanabe) アイヌツノコマユバチ
Brulleia nipponensis von Achterberg ニッポンオナガコマユバチ
Dinocampus coccinellae (Schrank) テントウハラボソコマユバチ
Meteorus graciliventrtris Muesebeck
Homolobus infumator (Lyle) ニセアメイロコンボウコマユバチ
Macrocentrus cingulum Brischke メイガヒゲナガコマユバチ
Braunsia pilosa Belokobylskij

Ichneumonidae ヒメバチ科

Psilomastax pyramidalis Tishbein シロコブアゲハヒメバチ

Pteromalidae コガネコバチ科

Cleonymus serruratus Kamijo

Eulophidae ヒメコバチ科

Sympiesis derogatae Kamijo

Tiphidae コツチバチ科

Tiphia juliana Parker キスケコツチバチ

Formicidae アリ科

Lasius alienus (Foerster) ヒメトビイロケアリ

Smithistruma masakoi Ogata et Onoyama マナヅルウロコアリ

Vespidae スズメバチ科

Dolichovespula saxonica nipponica Sk. Yamane ニッポンホオナガスズメバチ

Crabronidae ギングチバチ科

Crossocerus yamato Tsuneki ヤマトギングチ

Halictidae コハナバチ科

Sphecodes maruyamanus Tsuneki マルヤマヤドリコハナバチ

Sphecodes tanoi Tsuneki タノヤドリコハナバチ

Andrenidae ヒメハナバチ科

Andrena halictoides Smith ホオナガヒメハナバチ

Anthophoridae コシブトハナバチ科

Nomada fukuiana Tsuneki フクイキマダラハナバチ

◆ Kamijo, K. (1999) *Insecta Matsumurana*, New Ser. 55: 30-32.

Eulophidae ヒメコバチ科

Quadrastichodella gracilis Ikeda

※ 本種が埼玉県初記録であることは、《南部 敏明 (1999) 埼玉動物研通信 (32): 11-14.》で紹介されていたものであり、本稿の編者（碓井）は、オリジナルの文献は未見。

MECOPTERA シリアゲムシ目

- ◆ 内田 正吉 (1999) 寄せ蛾記 (92): 2758.

Bittacidae ガガンボモドキ科

Bittacus laevipes Navas キアシガガンボモドキ

DIPTERA 双翅目

- ◆ 玉木 長寿 (1999) 寄せ蛾記 (93): 2781-2784.

Chloropidae キモグリバエ科

Kurumemyia ongamea KANMIYA, 1983 カマキリヤドリキモグリバエ

=====

【埼玉県昆虫誌への訂正記事一覧】

HETEROPTERA 異翅目

- ◇ 林正美(1999) 寄せ蛾記 (93): 2801.

別巻のリストに関しての学名の訂正

ODONATA トンボ目

- ◇ 碓井ほか(1999) 寄せ蛾記 (93): 2802.

別巻での追加報文に関しての文献タイトルの一部訂正

その他、編集上の訂正

- ◇ 別巻 p.57 で、脚注の *埼玉県昆虫誌 I, pp.387-544 は, pp.287-386 が正しい.

- ◇ 第1巻の蝶類の索引 pp.586-587 で、学名索引に“*Pieridae*....300”が、和名索引に“シロチョウ科...300”がそれぞれ欠落している.

埼玉県産昆虫 目ごとの科・種数 最新情報

目 名	埼玉県昆虫誌 別巻 (1999)		前回までの 変更の合計		今回まとめ た変更の計		最新の科数と種数	
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
COLLEMBOLA	トビムシ目	9科	38種				9科	38種
PROTURA	カマシ目	4科	26種				4科	26種
DIPLURA	コムシ目	3科	4種				3科	4種
MICROCORYPHIA	イシノミ目	1科	1種				1科	1種
THYSANURA	シミ目	1科	1種				1科	1種
EPHEMEROPTERA	カゲロウ目	10科	72種				10科	72種
ODONATA	トンボ目	11科	90種				11科	90種
PLECOPTERA	カワゲラ目	9科	51種				9科	51種
BLATTARIA	ゴキブリ目	2科	4種				2科	4種
MANTODEA	カマキリ目	1科	5種				1科	5種
ISOPTERA	シロアリ目	1科	1種				1科	1種
ORTHOPTERA	直翅目	12科	121種			+1種	12科	122種
PHASMIDA	ナナフシ目	1科	5種				1科	5種
DERMAPTERA	ハサミムシ目	4科	13種				4科	13種
GRYLLOBLATTODEA	カマシ目	1科	4種				1科	4種
PSOCOPTERA	チャタテムシ目	1科	1種				1科	1種
MALLOPHAGA	ハジラミ目	1科	1種				1科	1種
ANOPLURA	シラミ目	5科	10種				5科	10種
THYSANOPTERA	アザミウマ目	2科	13種				2科	13種
HETEROPTERA	異翅目	38科	362種				38科	362種
HOMOPTERA	同翅目	36科	619種			+1種	36科	620種
AUCHENORRHYNCHA	顎吻亜目	(17科367種)				(+1種)	(17科368種)	
STENORRHYNCHA	腹吻亜目	(19科252種)					(19科252種)	
MEGALOPTERA	ヒトホ目	2科	5種				2科	5種
RAPHIDIOPTERA	ラクダムシ目	2科	2種				2科	2種
NEUROPTERA	アミメカクシ目	10科	46種			+3種	10科	49種
COLEOPTERA	鞘翅目	107科	2826種			+1科 +35種	108科	2861種
STREPSIPTERA	シシトメ目	3科	13種				3科	13種
HYMENOPTERA	膜翅目	51科	1069種			+1科 +41種	52科	1110種
MECOPTERA	シメジ目	2科	18種			+1種	2科	19種
SIPHONAPTERA	ノミ目	8科	30種				8科	30種
DIPTERA	双翅目	87科	1490種			+1種	87科	1491種
TRICOPTERA	トビケラ目	19科	83種				19科	83種
LEPIDOPTERA	鱗翅目	57科	2336種				57科	2336種
	蝶類	(5科 135種)					(5科 135種)	
	蛾類	(52科2201種)					(52科2201種)	

32目 501科 9,360種
(埼玉県昆虫誌 別巻刊行時)

+2科 +83種 503科 9,443種
(本誌 刊行時)

大滝村プロジェクトの報告 (1)

石 蔵 拓

1. プロジェクトの目的

談話会で「大滝村プロジェクト」が本年度からスタートすることになりました。プロジェクトといっても大滝村を集中調査して3年後に特集号として寄せ蛾記にてとりまとめを行うものです。

「埼玉県昆虫誌」編纂が終了しました。この偉業がなされ、埼玉県昆虫相の解明度は飛躍的に高まりました。そして地方単位での解明度も具体的に浮き彫りとなったと思います。昆虫調査すべき場所はまだ各所に残っております。

その中で大滝村の位地付けは埼玉県を越えて関東として、さらに本州として最重要昆虫相と考えられます。筆者が寄せ蛾記 No. 88 で述べたように大滝村は「埼玉のチベット」と言われ、埼玉県で一番大きな面積を持ち群馬県、長野県、山梨県、東京都に接している謎に満ちた広大な所であります。とにかくこの地は遠く大宮浦和から3時間以上はかかります。3時間以上あれば、埼玉から関越道路を使えば新潟を越えて日本海に着いてしまう。このことが採集者の足を遠ざけていて、21世紀を迎えようする今日でも大滝村には採集者未踏の場所を非常に多く残しています。

この大滝村プロジェクトでどこまで採集者未踏の場所が減らせるかが課題であります。県初記録又は新種が発見される可能性とその期待度は高いものがあります。

2. プロジェクトの実施

既に「埼玉県昆虫誌」のプロジェクトで大滝村の採集情報は大量に蓄積されています。その財産を有効に使用し、まだ残る未採集地の情報を追加補足するために採集会を実施します。

採集会の年単位目標 1999年 林道周辺調査及び大滝村未採集者の案内
2000年 稜線周辺の本格調査
2001年 未定

3年という短期間のため以下の小プロジェクトが既に開始されています。

- ・寄せ蛾記特集号「仮称：大滝村の蝶」編纂プロジェクト 担当：石塚正彦、加藤輝年
2002年発行予定
- ・寄せ蛾記特集号「仮称：大滝村のカミキリムシ、タママシ」編纂プロジェクト 担当主幹：
石蔵拓、土川浩司 2002年発行予定
- ・寄せ蛾記特集号「仮称：大滝村の蛾類」編纂プロジェクト 神部正博、築比地秀夫らで具体的な編纂案策定中
- ・寄せ蛾記特集号「仮称：大滝村の歩行虫」編纂プロジェクト 担当：豊田浩司 編纂開始予定は2000年以降
- ・その他 大滝村の双翅目は玉木長寿氏内で定中です。他の種については未定です。担当希望者を広く募ります。

3. 1999年の活動報告

週末に天候に恵まれず採集会がいくつも中止された。全体の報告は各々が寄せ蛾記に報告することで省略致します。報告内容は筆者のカミキリムシ中心のもので採集記録は非文献として後日正式報告します。

各々採集会に参加された方は寄せ蛾記に採集報告をして下さい。特に蛾類班は八丁峠で集中したライトラップ採集会を多く行っているのので報告をお願いします。

- 4月17日 三峰-中津川林道 土川、小倉、石蔵 午前 三峰の調査 サルナシからムネモンヤツボシカミキリの蛹割出す(後日羽脱) ホウノキも多い。三峰は乾燥しすぎている。幼虫が少ない。フチグロヤツボシカミキリは採れそう。午後 中津川林道調査 スギタニルリシジミ採集。伐採材を持ち帰り後日5種のトラカミキリ羽脱するが特にトガリバアカネトラカミキリの発生が多くなっている 神奈川、東京も同傾向にあるそう。マツシタトラカミキリ、イタヤカミキリ食痕多数発見。オオアオカミキリの新たな生息地はまだありそう。
- 5月3日 中津川 石塚、石蔵 寒く、曇りで風があった。中津川から志賀坂にかけて樹相調査 ヒナルリハナカミキリ



大滝村概念図

- 5月23日 入川林道 石塚、加藤、石蔵 快晴。ミズキが満開。入川は7 kmの短い林道だが点々とモミが多い。10頭以上のカラスアゲハの吸水を目撃。フタオビハナカミキリ、シロトラカミキリ、キンケトラカミキリ、セスジヒメハナカミキリ カラカネハナカミキリ、シロテンナガタマムシ、シロオビナガホソタマムシ 昆虫誌の影響か他県の採集者に会おう。
- 6月13日 中津川 石蔵 チャボヒゲナガカミキリ、ミドリカミキリ、エグリトラカミキリ、カラカネハナカミキリ ヘリグロベニカミキリ、ミヤマルリハナカミキリ、ハネビロハナカミキリ
- 7月11日 豆焼橋 阿部 石蔵 大雨。去年完成したばかり林道へ(豆焼橋周辺) 巨大ヒル(20 cm以上)が多数いた。ピドニア類、カッコウカミキリ、ドウボソカミキリ、オオトラフコガネ
- 7月25日 山吹沢林道 玉木、石塚、加藤、鷲尾、神部 石蔵 中津川林道が土砂崩れで不通のため山吹沢林道へ変更する。オオトラフコガネ、ヒゲシロハナカミキリ、コウヤホソハナカミキリ、フタオビアラゲカミキリ マルガタハナカミキリ、ナガゴマフカミキリ、ハンノアオカミキリ
- 7月31日 滝沢渓谷 土橋、築比地、長畑、鷲尾、阿部 豆焼き橋付近は街灯が多くライトに適なさいと判断。19:15-22:00 滝沢渓谷周辺でライト3基設営 22:00以降月が出てきたので終了。ハンノアオカミキリ、ヒゲナガヒメサビカミキリ、カタシロゴマフカミキリ、ブナケシカミキリ、カブトムシ、その他 トワダムモンメダカカミキリが採れている。つまんだ長畑氏は寄せ蛾記に報告して下さい。
- 8月1日 豆焼橋 鷲尾 石蔵 アサキマダラ20頭以上目撃 クリイロシラホシカミキリ、ヤツボシハナカミキリ、ブナケシカミキリ、フタオビアラゲカミキリ マルガタハナカミキリ、フタスジハナカミキリ、ヨツスジハナカミキリ、アカハナカミキリ トゲバカミキリ、ホソヒゲケブカカミキリ、オオトラフコガネ 鷲尾選手はまだ大学生、なかなかの採集上手である。今年カミキリに興味持ち同行する。
- 8月8日 三国峠 荻部 石蔵 曇りのち小雨と状況は最悪で採集にならなかった。キベリカタビロハナカミキリ、オオハナカミキリ、フタスジハナカミキリ、マルガタハナカミキリ ニンフハナカミキリ、オオアオカミキリ(目撃)
- 9月11日 豆焼橋と大血川 土川、塚本、石蔵 ハスオビヒゲナガカミキリ、フジコブヤハズカミキリ、ナカジロサビカミキリ オニクワガタ 土川氏に埼玉のフジコブの報告を依頼する予定です。土川氏は三峰でフジコブ、フチグロヤツボシ、トラフホソバネカミキリなどを採集した 若手カミキリ屋の超ホープである。
- 9月19日 豆焼橋 石蔵 フジコブヤハズカミキリ、クロナガオサムシ 埼玉ではフジコブは厳しい。今年はコブで有名な平井さんの案内が雨続きでできなかった。

4. 活動の反省点と来年の抱負

- ・テーマの違う虫屋が合同で採集するのは非効率である。来年は合同採集会は減らし、専門採集会を増やしていきたいと思う。
- ・予定していた採集者未踏の「和名倉山」に今年踏み込めませんでした。来年の重要課題としたい。けれど片道8時間以上かかります。ヘリコプターが必要。
- ・来年は甲武信岳から埼玉県最高峰「三宝山」への採集を予定。同行者歓迎

以上

寄せ蛾記 93号 目次

- 荻島 和美：ジャコウアゲハの大発生について・・・2771-2775
- 萩原 昇：奥武蔵高原でまぼろしのゼフィルス2種を採集・・・2776-2777
- 古城 知己：鷲宮町の蝶の採集記録・・・2778-2779
- 天野 来人：県南部におけるアサギマダラを目撃例・・・2779
- 奥谷 禎一：見るチャンスの少ない埼玉県関係の
甲虫類の報文の紹介・・・2779
- 天野 来人：岩槻市槻の森スポーツセンターにて
ミドリシジミ観察会を開催・・・2780
- 天野 来人：岩槻市でヤブヤンマを採集・・・2780
- 玉木 長寿：北本市で採集されたオオカマキリの卵莢から脱出
したカマキリヤドリキモグリバエ（本州初記録）・・・2781-2784
- 古城 知己：オオセスジイトトンボを鷲宮町（埼玉県）で採集・・・2785
- 石塚 正彦：秩父のクロツバメシジミ・・・2786-2791
- 石塚 正彦：秩父の蝶、諸々・・・2792-2796
- 中川 利勝：早春の神居古潭をゆく・・・2797-2800
- 林 正美：『埼玉県の半翅類』への訂正・・・2801
- 柴田 直之：埼玉県内のセモンササキリモドキ属の
記録の訂正と追加・・・2802
- 碓井徹・鈴木幸・斉藤洋一：『埼玉県のトンボ目への
追加』の訂正・・・2802
- 埼玉昆虫談話会：昆虫誌プラス（1）・・・2803-2809
- 石蔵 拓：大滝村プロジェクトの報告（1）・・・2810-2812
- 会報・・・2812
- [埼玉昆虫談話会 1999年12月24日発行 42pp.]